YAMAHA

J

デジタルサウンドプロジェクター

YSP-2500

[YSP-CU2500 + NS-WSW120]

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
■製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに保管してください。
■保証書に「購入日、製品名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（75 ～ 78 ページ）を必ずお読みください。

保証書別添付

もくじ

本機の特長 4

本機でできること 4

準備する 5

付属品の確認 5
各部の名称とはたらき 6
センターユニット（前面・上面） 6
センターユニット（背面） 7
前面ディスプレイ 8
リモコン 9
サブウーファー 10
設置 11
推奨する設置位置 11
設置位置の例 12
推奨できない視聴環境 14
部屋の条件を問わずにサラウンドを楽しむ（マイサラウンド機能） 14
センターユニットの設置によりテレビのリモコンが効かないとき（テレビリモコンリピーター機能） 14
センターユニットの高さを調整する 15
サブウーファーを横置きにする 17
リモコンの準備 18
電池を入れる 18
操作範囲 18
接続する 19
テレビを接続する 20
オーディオリターンチャンネル（ARC）対応テレビの場合 20
オーディオリターンチャンネル（ARC）非対応のテレビの場合 20
再生機器を接続する 21
HDMI 接続 21
光デジタル接続 21
アナログ接続 22
同軸デジタル接続 22
電源コードを接続する 23
サブウーファーを接続する 24
はじめて使うときの設定 25
メニュー画面をテレビに表示する 25
サラウンド効果を自動設定する（インテリビーム） 26
インテリビームマイクを設置する 26
測定する 27
テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能） 31
HDMI コントロール機能とは 31
HDMI コントロール機能の設定 32
接続方法や接続機器を変更する 32

再生する 33

再生の基本手順 33
お好みのサウンドを楽しむ 34
サラウンドで再生する 34
臨場感のあるサラウンド音声を楽しむ（シネマ DSP） 34
サラウンドの音声出力を切り替える 36
2 チャンネルで再生する（ステレオ再生） 38
特定の位置に音声を届ける（ターゲット再生） 38
ヘッドホンでサラウンドを楽しむ 38
MP3 などの圧縮音声を豊かに再生する（ミュージックエンハンサー） 39
人の声を明瞭に再生する（クリアボイス） 39
各チャンネルの音量を調整する 39
便利な機能を使う 40
音量の急激な変化をおさえる（ユニボリューム） 40
二カ国語放送の音声を切り替える 40
エコ機能で節電する 40
前面ディスプレイの情報表示を切り替える 40
システムメモリーに本機の設定を保存する 41
システムメモリーに保存する 41
保存したメモリーを呼び出す 41
Bluetooth 機器の音楽を聴く 42
本機に ***Bluetooth*** 機器を登録する（ペアリング） 42
本機で ***Bluetooth*** 機器を再生する 43
Bluetooth 接続を切断する 43
Bluetooth スタンバイモードを利用する 44
アプリで便利に使いこなす 44

設定する 45

設定メニュー 45
- 操作手順 45
- 設定メニューリスト 46
- ビームの設定 47
  - 水平角度 47
  - ビーム経路長 47
  - 焦点距離 48
  - Lch / Rch 位置調整 49
  - チャンネル出力 49
  - サブウーファー 50
- サウンドの設定 50
  - チャンネルレベル 50
  - ダイナミックレンジ 51
  - アダプティブ DRC 51
  - マトリックスデコーダー 52
  - Dolby PL IIx パラメーター 53
- HDMI の設定 53
  - HDMI コントロール 53
  - HDMI 音声出力 53
  - TV インプット 54
- 表示の設定 54
  - ディマー 54
  - 距離単位 55
  - メニュー言語 55
- 情報表示 56
  - 音声 56
  - 映像 56
  - システム 56

入力ごとの設定（オプションメニュー） 57
- 操作手順 57
- オプションメニューリスト 58
  - 音色を調整する（高音、低音） 58
  - 各端子の入力レベルを設定する（再生レベル補正） 58
  - 映像と音声のタイミングを調整する（オーディオディレイ） 58
  - HDMI の音声を他の入力端子に割り当てる（音声入力端子） 58

拡張メニュー 59
- 操作手順 59
- 拡張メニューリスト 60

困ったときは 61

故障かな？と思ったら 61
- 全般 61
- ***Bluetooth*** 65
- リモコン 66

メッセージリスト 66

サラウンド感が得られないときは 67
- YRB-100 の 設置と調整 67

センターユニットとサブウーファーのペアリング 69

付録 70

サラウンドの基礎知識 70
- サラウンドとは？ 70
- デジタルサウンドプロジェクターとは？ 70
- ヤマハの音声技術 70
  - ミュージックエンハンサー 70
  - シネマ DSP 70
  - バーチャルサラウンドヘッドホン 70

用語 / 技術解説 71

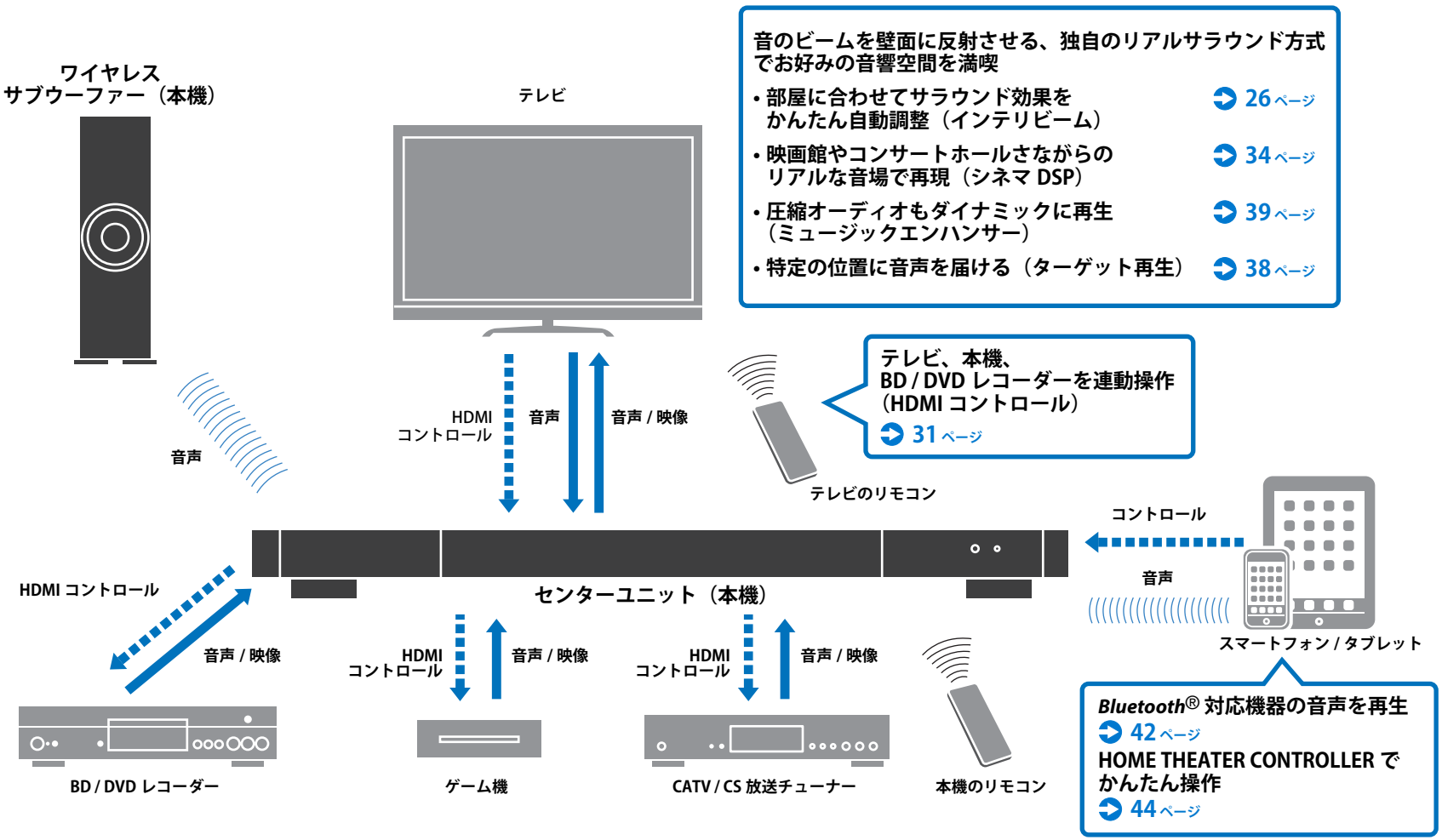
主な仕様 72
- 対応する信号 74
  - HDMI 74
  - デジタル音声（光・同軸） 74

安全上のご注意 75

索引 80

本機の特長

本機でできること



準備する

本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- では、知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- では、使用上の注意点や機能上の制約を記載しています。

付属品の確認

ご使用になる前に、付属品がすべてそろっていることを確認してください。

YSP-2500 の構成

センターユニット（YSP-CU2500）



ワイヤレスサブウーファー（NS-WSW120）

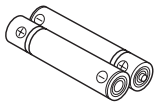


付属品

リモコン



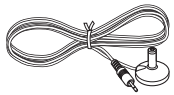
単 4 乾電池（2 本）



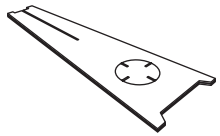
光ファイバーケーブル（1.5m）



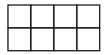
インテリビームマイク（6m）



簡易マイクスタンド



滑り止めパッド（8 個）



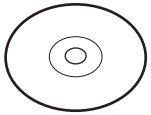
取扱説明書（本書）



簡易接続・操作ガイド



サラウンド確認用 DVD



ステッカー（無線に関するご注意）



- 付属のケーブルは、接続状況によって余る場合があります。

各部の名称とはたらき

センターユニット（前面・上面）



❶ リモコン受光部
本機のリモコンの赤外線信号を受信します（9 ページ）。

❷ テレビリモコン受光部
テレビリモコンリピーター機能がオンのときに、テレビのリモコンの赤外線信号を受信します（14 ページ）。

❸ STATUS（ステータス）インジケーター
システムの状態を表示します。
緑点灯： 電源オン
赤点灯： 電源オフ（HDMI コントロールまたは *Bluetooth* スタンバイが有効なとき）
消灯： 電源オフ

❹ 前面ディスプレイ
再生の状態や設定値などを表示します（8 ページ）。

❺ PHONES（ホーンズ）端子
ヘッドホンを接続します（38 ページ）。

❻ INTELLIBEAM MIC（インテリビームマイク）端子
付属のインテリビームマイクを接続します（27 ページ）。

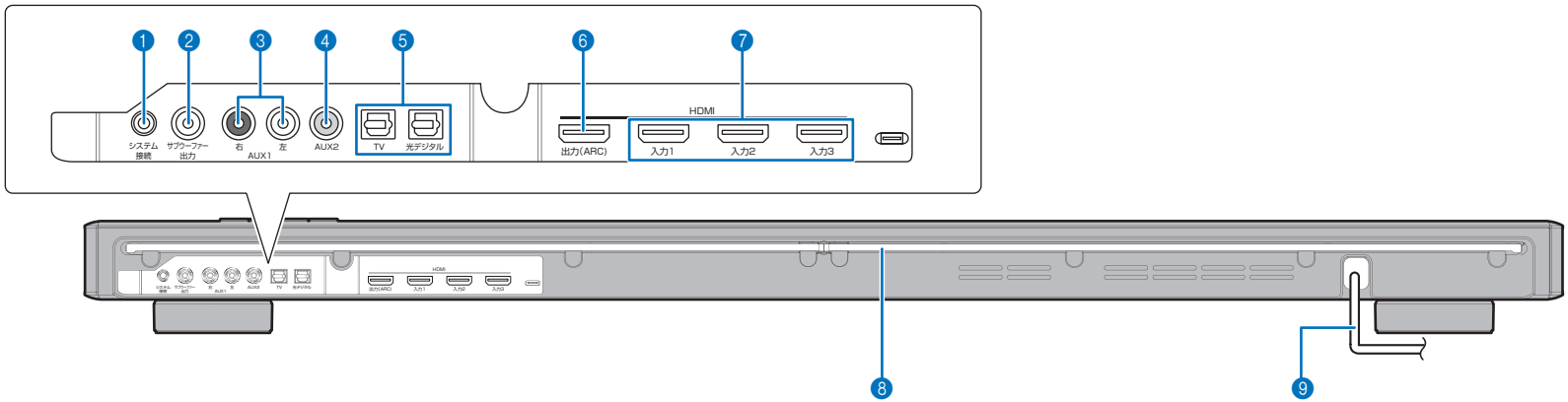
❼ INPUT（インプット）キー
再生する機器を選択します（33 ページ）。

❽ VOLUME（ボリューム）（+/–）キー
音量を調節します（33 ページ）。

❾ ⏻（電源）キー
電源のオン / オフを切り替えます。

- 本機はオフのときも、HDMI 信号を検知したり、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

センターユニット（背面）



1 システム接続端子
付属のサブウーファーと有線接続するときに使います（24 ページ）。

2 サブウーファー出力端子
付属のサブウーファーと有線接続するときに使います（24 ページ）。

3 AUX1（アナログ）入力端子
アナログ音声出力端子を持つ再生機器を接続します（22 ページ）。

4 AUX2（同軸デジタル）入力端子
同軸デジタル音声出力端子を持つ再生機器を接続します（22 ページ）。

5 TV、光デジタル端子
光デジタル音声出力端子を持つ再生機器を接続します（20、21 ページ）。

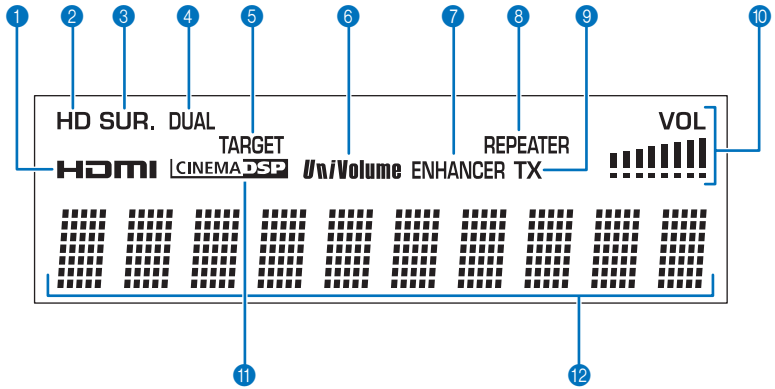
6 HDMI 出力（ARC）端子
HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します（20 ページ）。

7 HDMI 入力（1 ～ 3）端子
BD（ブルーレイディスク）/ DVD レコーダーや衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機など、HDMI 対応の再生機器を接続します（21 ページ）。

8 テレビリモコンリピーター
テレビリモコンリピーター機能がオンのときに、センターユニット前面でテレビのリモコン信号を受信し、テレビリモコンリピーターを使ってテレビに伝達します（14 ページ）。

9 電源コード
電源コードのプラグをコンセントに接続します（23 ページ）。

前面ディスプレイ



1 HDMI インジケーター
HDMI 信号を入力しているときに点灯します。

2 HD インジケーター
HD オーディオ信号（ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューション、DTS Express、マルチチャンネルリニア PCM）を入力しているときに点灯します。

3 SUR.（サラウンド）インジケーター
マルチチャンネルオーディオ信号を入力しているときに点灯します。

4 DUAL（デュアル）インジケーター
BS / CS / 地上デジタルのモノラル音声多重放送が入力されているときに点灯します（40 ページ）。

5 TARGET（ターゲット）インジケーター
ターゲット再生のときに点灯します（38 ページ）。

6 UNIVOLUME（ユニボリューム）インジケーター
ユニボリュームがオンのときに点灯します（40 ページ）。

7 ENHANCER（エンハンサー）インジケーター
ミュージックエンハンサーがオンのときに点灯します（39 ページ）。

8 REPEATER（リピーター）インジケーター
テレビリモコンリピーター機能がオンのときに点灯します（14 ページ）。

9 TX インジケーター
付属のサブウーファーとの無線通信が確立しているときに点灯します（24 ページ）。

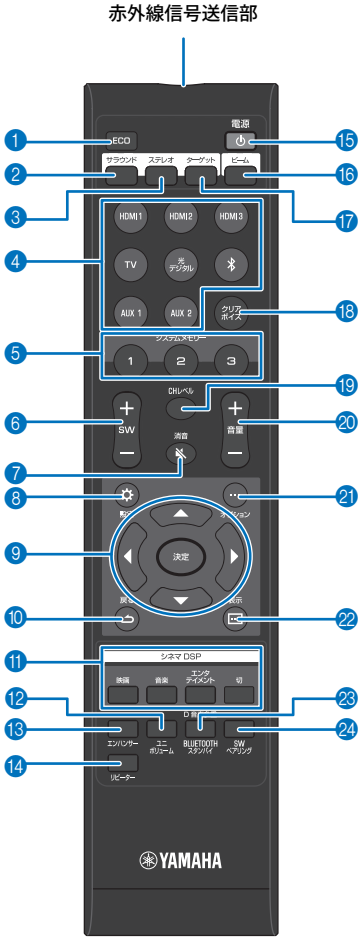
10 VOL インジケーター
現在の音量を表示します（33 ページ）。

11 CINEMA DSP（シネマ DSP）インジケーター
シネマ DSP 音場プログラムを使って再生しているときに点灯します（34 ページ）。

12 情報ディスプレイ
再生する機器の入力名やサラウンドなどの設定を表示します（40 ページ）。また、設定値などの情報をアルファベットや数字で表示します。

- エコ機能がオンになっていると、前面ディスプレイは消灯し、操作したときだけ点灯します（40 ページ）。
- 前面ディスプレイの明るさは、設定メニューの「ディマー」で調節することができます（54 ページ）。
- HD オーディオ信号とは、従来のデジタルオーディオ信号に比べて優れた音質を持つ音声信号です。

リモコン



1 ECO キー
エコ機能のオン / オフを切り替えます（40 ページ）。

2 サラウンドキー
サラウンド再生に切り替えます（34 ページ）。

3 ステレオキー
ステレオ再生に切り替えます（38 ページ）。

4 入力選択キー
再生する機器を選択します（33 ページ）。

5 システムメモリーキー
インテリビームの測定結果やチャンネルレベルなどの設定を保存します（41 ページ）。

6 SW（＋ / －）キー
サブウーファーの音量を調節します（33 ページ）。

7 消音（🔇）キー
一時的に消音します（33 ページ）。

8 設定（☼）キー
設定メニューに入ります（45 ページ）。

9 ▲ / ▼ / ◀ / ▶ キー、決定キー
設定を変更します（45 ページ）。

10 戻る（⮌）キー
ひとつ手前のメニュー表示に戻します。

11 シネマ DSP キー
サラウンド再生時にシネマ DSP 音場プログラムを選択します（34 ページ）。

12 ユニボリュームキー
ユニボリューム機能のオン / オフを切り替えます（40 ページ）。

13 エンハンサーキー
ミュージックエンハンサーのオン / オフを切り替えます（39 ページ）。

14 リピーターキー
テレビリモコンリピーター機能のオン / オフを切り替えます（14 ページ）。

15 電源（⏻）キー
電源のオン / オフを切り替えます（33 ページ）。

16 ビームキー
音声ビームの出力方法を切り替えます（36 ページ）。

17 ターゲットキー
ターゲット再生に切り替えます（38 ページ）。

18 クリアボイスキー
クリアボイスのオン / オフを切り替えます（39 ページ）。

19 CH レベルキー
再生中に音量バランスを調節します（39 ページ）。

20 音量（＋ / －）キー
音量を調節します（33 ページ）。

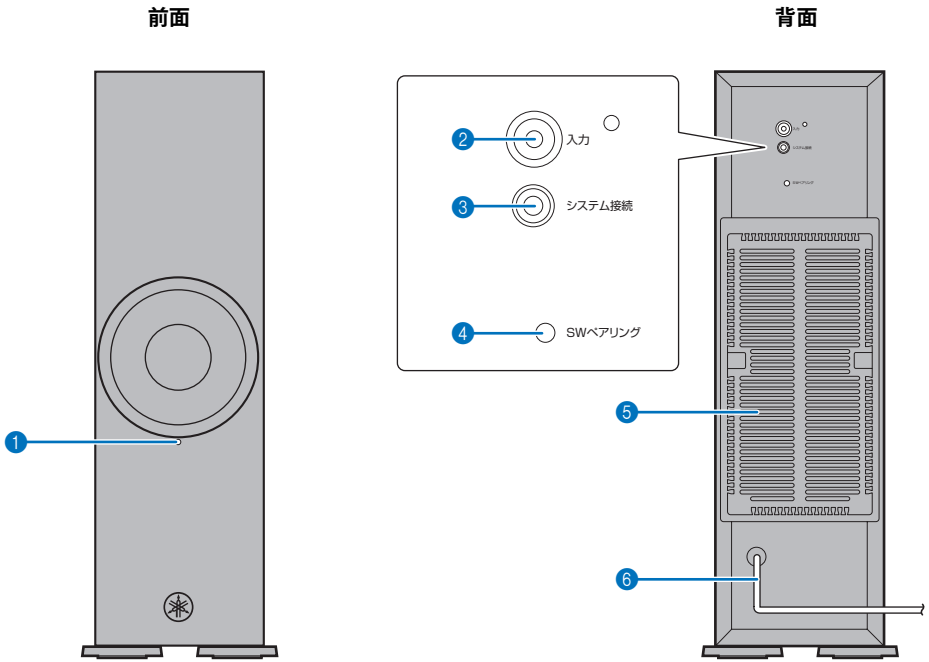
21 オプション（⋯）キー
入力ごとの設定（オプションメニュー）に入ります（57 ページ）。

22 表示（▭）キー
前面ディスプレイに表示する情報を切り替えます（40 ページ）。

23 BLUETOOTH スタンバイキー・D 音声多重キー
- BLUETOOTH スタンバイキー：3 秒以上押して、*Bluetooth* スタンバイモードのオン / オフを切り替えます（44 ページ）。
- D 音声多重キー：前面ディスプレイに DUAL インジケーターが点灯しているときに、デジタル音声多重の設定を切り替えます（40 ページ）。

24 SW ペアリングキー
センターユニットとサブウーファーを手動でペアリングするときに使います（69 ページ）。

サブウーファー



1 接続インジケーター
サブウーファーの状態を表示します（24 ページ）。
緑点灯： 電源オン
赤点灯： 電源オフ

2 入力端子
センターユニットと有線接続するときに使います（24 ページ）。

3 システム接続端子
センターユニットと有線接続するときに使います（24 ページ）。

4 SW ペアリングキー
センターユニットとサブウーファーを手動でペアリングするときに使います（69 ページ）。ピンなどの先の細いもので押してください。

5 放熱部
サブウーファー内部に生じた熱を放出します。布などで放熱部を覆わないように注意してください。

6 電源コード
電源プラグのコードをコンセントに接続します（23 ページ）。

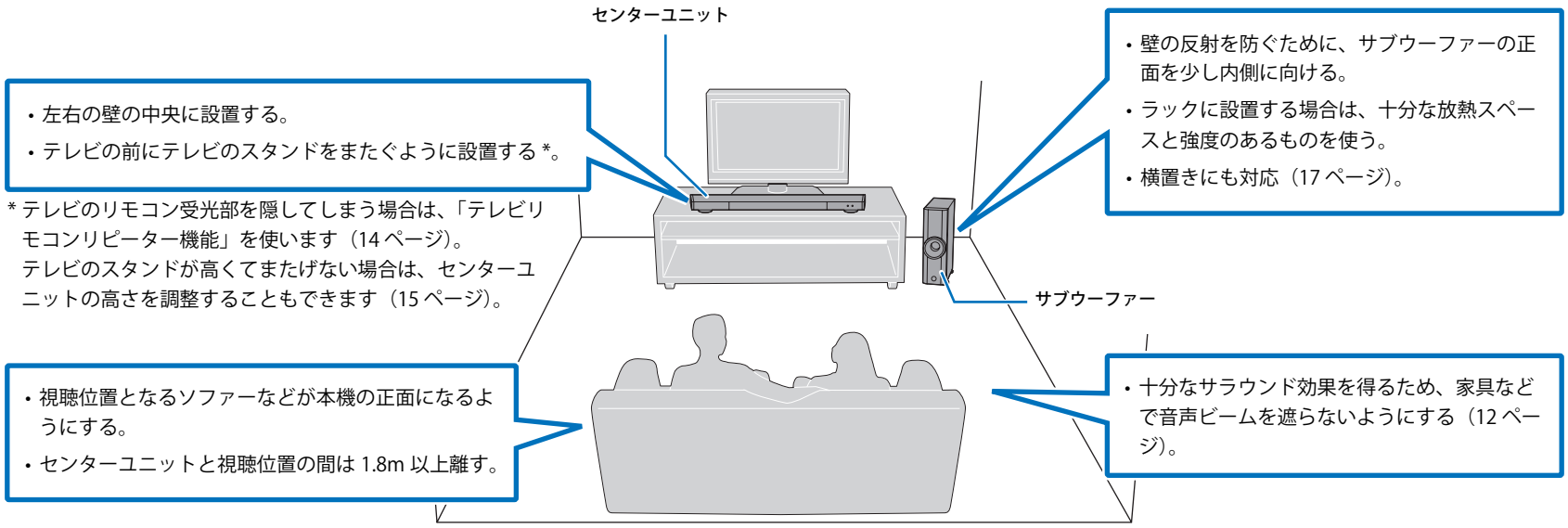
設置

本機は音声ビームを壁に反射させてサラウンド効果を生み出します。十分なサラウンド効果を得るためには、本機と視聴位置、およびリスニングルームの壁との位置関係が重要です。背面のスペースが狭いラックなど、設置する場所によっては、先に外部機器と接続してから設置するほうが簡単な場合があります。接続については、「接続する」（19 ページ）をご覧ください。

ご注意

- センターユニットは、地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように安定した広い台の上に設置してください。
- サブウーファーは非防磁のスピーカーを搭載しています。ハードディスクドライブなどを近くに設置しないでください。
- センターユニットとサブウーファーを他の再生機器などと直接重ねないでください。熱や振動により機器が故障することがあります。

推奨する設置位置



❑ 無線接続について

本機のセンターユニットとサブウーファーは無線で通信します。センターユニットとサブウーファーのあいだに金属板があったり、金属製のラックにサブウーファーを置いたりするとサブウーファーの性能が十分に発揮されないことがあります。設置状況により音が途切れたりする場合は、センターユニットとサブウーファーを有線接続します (24 ページ)。

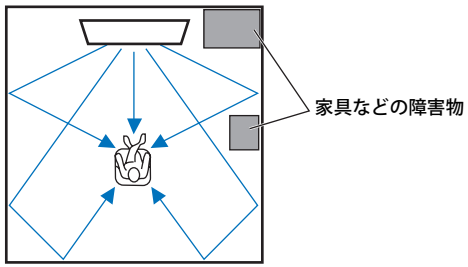
設置位置の例

本機は下図のように音声をビーム化して出力します。十分なサラウンド効果を得るために、下図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。

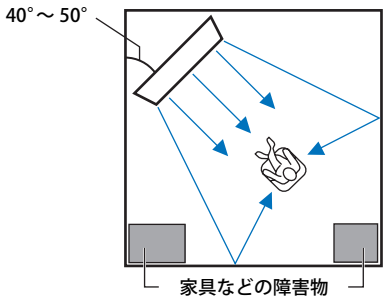
本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右どちらかの壁に近づきすぎないようにしてください。

本機を部屋のコーナーに設置する場合には、本機と、隣接する壁との角度が 40°～ 50°の間におさまるように設置してください。

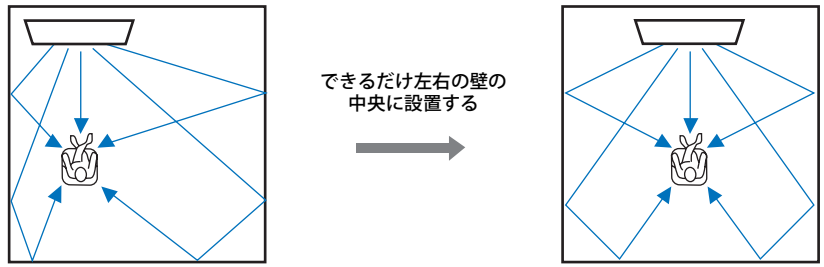
壁と平行に設置
〔5 ビームモードに設定した場合〕



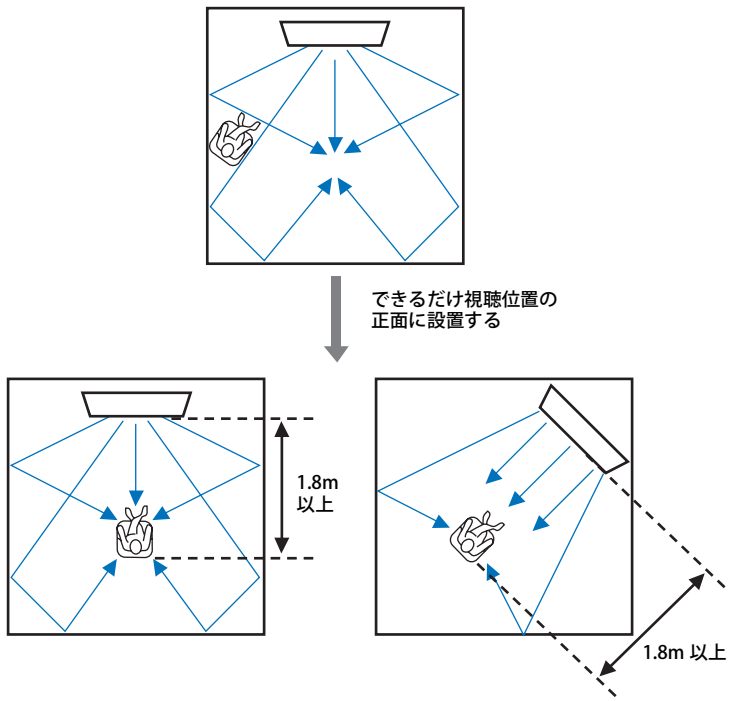
コーナーに設置
〔ST + 3 ビームモードに設定した場合〕



壁と平行に設置する場合の本機の位置

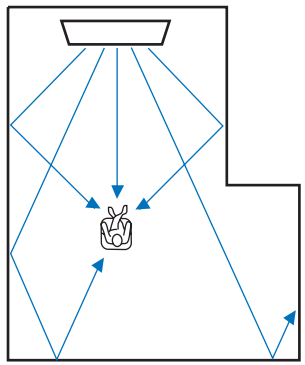


視聴位置と本機の位置

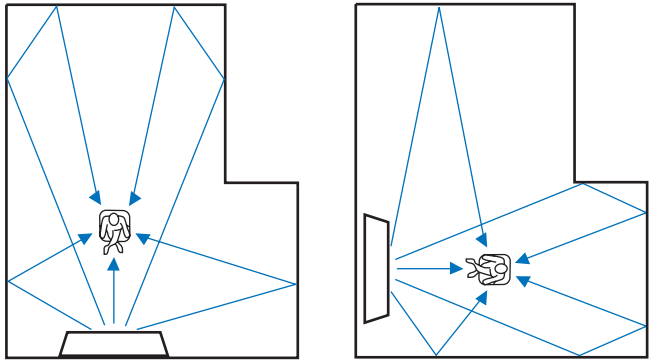


変則的な形の部屋に設置する場合

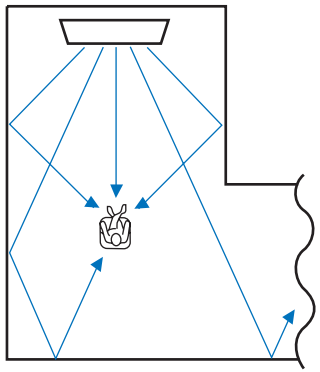
壁がある場合



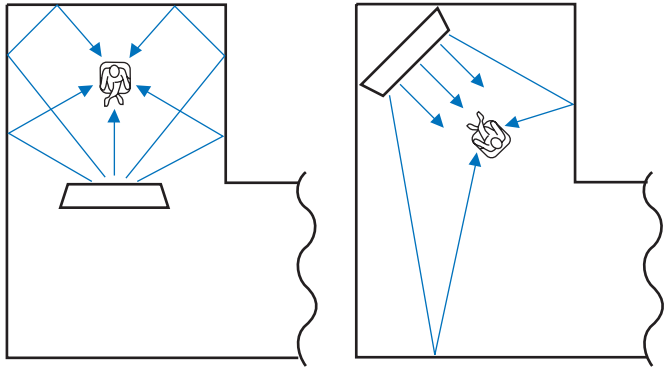
ビームが壁に反射できるように
設置する



壁ではなく、長い廊下が続いている場合



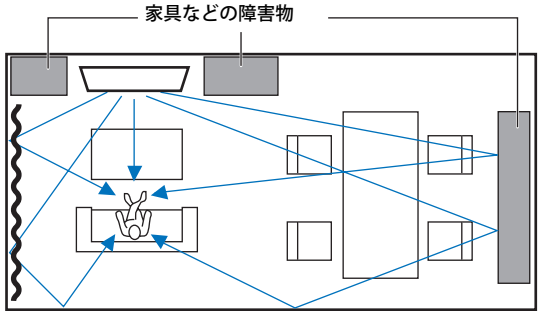
ビームが壁に反射できるように
設置する



- 本機の位置や視聴位置を変更できない場合は、別売の「サウンドリフレクションボード（YRB-100）」を設置してサラウンド感を向上させることができます（67 ページ）。

リビングへの設置例

- 通常テーブルなどは音声ビームを通すため、障害にはなりません。また、壁に設置した戸棚などは音を反射します。
- 下図のような部屋の場合、自動設定（26 ページ）の後に右チャンネルの位置を調整することでさらに正確なサラウンド感を得ることができます。（49 ページ）
- カーテンは音を吸収するため、開けたときと閉めたときで音の特性が変わります。メモリー機能を使うことで、それぞれの状態に最適な設定を保存できます。（41 ページ）



推奨できない視聴環境

本機は音声ビームを壁に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

- ビーム経路上に壁がない部屋
- 壁の材質が吸音素材でできている部屋
- 部屋の大きさが幅 3m ～ 7m、奥行き 3m ～ 7m、高さ 2m ～ 3.5m にあてはまらない部屋
- ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋
- 本機から視聴位置までの距離が 1.8m 未満の場合
- 壁に近いところに視聴位置がある場合
- 視聴位置が本機の正面にない場合

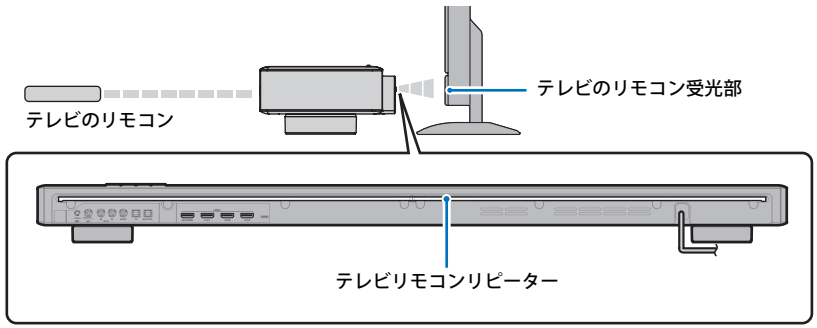
部屋の条件を問わずにサラウンドを楽しむ（マイサラウンド機能）

「推奨できない視聴環境」でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「サラウンドの音声出力を切り替える」（36、37 ページ）をご覧ください。

センターユニットの設置によりテレビのリモコンが効かないとき（テレビリモコンリピーター機能）

テレビリモコンリピーター機能を使用すると、センターユニット前面のテレビリモコン受光部で受信したテレビリモコン信号を、背面のテレビリモコンリピーターから送信できます。センターユニットでテレビのリモコン受光部が隠れてしまい、テレビを操作しにくい場合などにご利用ください。

- テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ、この機能を利用できます。



1 **本機の電源をオンにする。**

2 **本機のリモコンのリピーターキーを 3 秒以上押して、テレビリモコンリピーター機能をオンにする。**

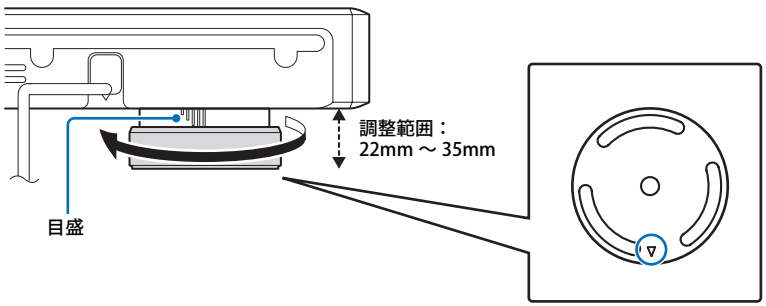
前面ディスプレイの REPEATER インジケーターが点灯します。

テレビリモコンリピーター機能をオフにする

本機のリモコンのリピーターキーを 3 秒以上押します。

センターユニットの高さを調整する

センターユニットの高さが足りないときは、脚部を左に回してセンターユニットの高さを上げます。脚部底面にある△マークと左右脚部の内側にある目盛を確認しながら、左右が同じ高さになるように調節してください。



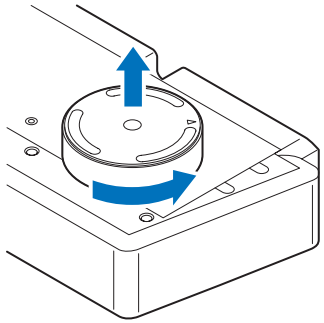
❑ 脚部をはずす

センターユニットがテレビのリモコン受光部や 3D グラス用の発信部などを隠す場合は、脚部を取り外してセンターユニットの高さを下げます。

脚部はセンターユニットにネジで固定されているパーツ（脚部内側）と、回して外すことができるパーツ（脚部外側）からなっています。

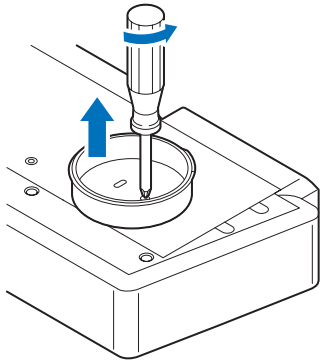
1 脚部外側を外す。

脚部を左に回し続けると、脚部外側が外れます。



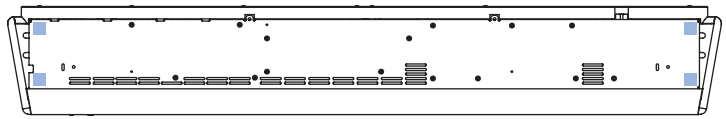
2 脚部内側を外す。

プラスドライバーでネジを外します。



3 底面の四隅に、滑り止めパッド 4 枚（付属）を貼る。

下図は貼り付け位置の例です。

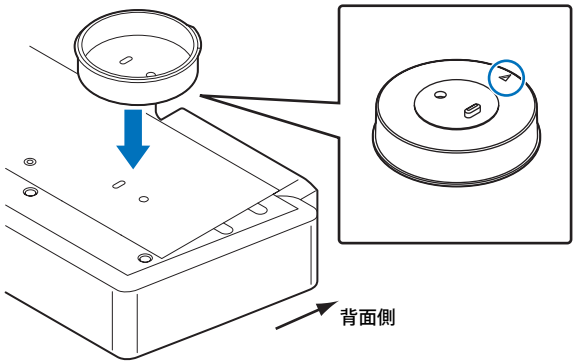


- 設置方法を変更するときのため、またお子様が誤ってネジなどを飲み込まないように、取り外した脚部とネジはお子様の手の届かないところに大切に保管してください。

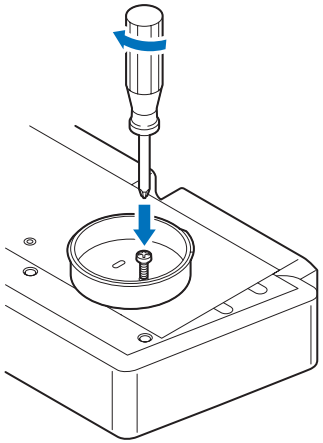
❑ 脚部を取り付ける

1 脚部内側を取り付ける。

脚部内側の△マークをセンターユニットの背面側に向け、突起を本機の溝にはめ込む。

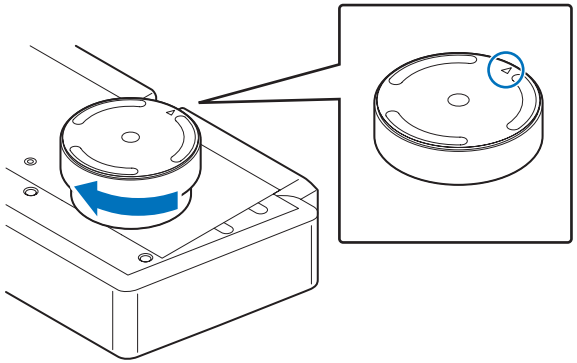


プラスドライバーでネジを締め、脚部内側を固定する。



2 脚部外側を取り付ける。

脚部外側の△マークをセンターユニットの背面側に合わせ、右に回して取り付けます。

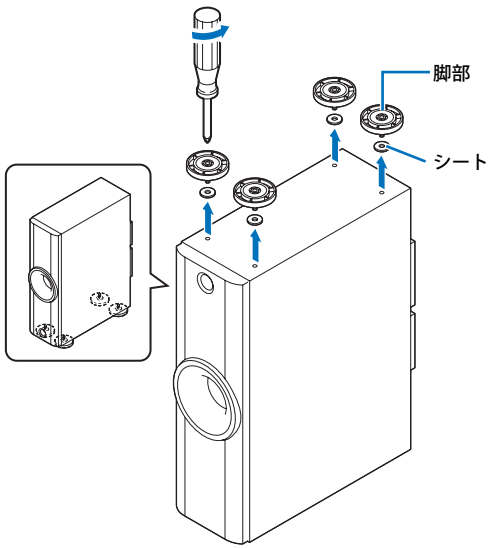


サブウーファーを横置きにする

サブウーファーを横置きにすると、ラックなどに設置できます。

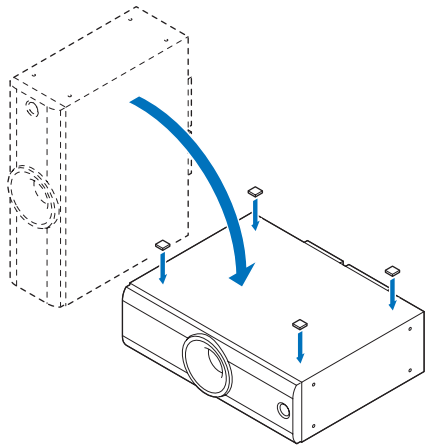
1 サブウーファー底面の脚部とシートを取り外す。

ドライバーで脚部のネジを外します。

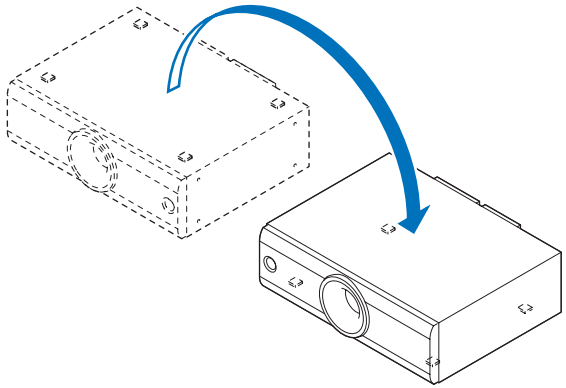


- 縦置きに変更するときのため、またお子様が誤ってネジなどを飲み込まないように、取り外した脚部、シートとネジはお子様の手の届かないところに大切に保管してください。

2 サブウーファーを図のように横向きに置き、四隅に滑り止めパッドを貼り付ける。



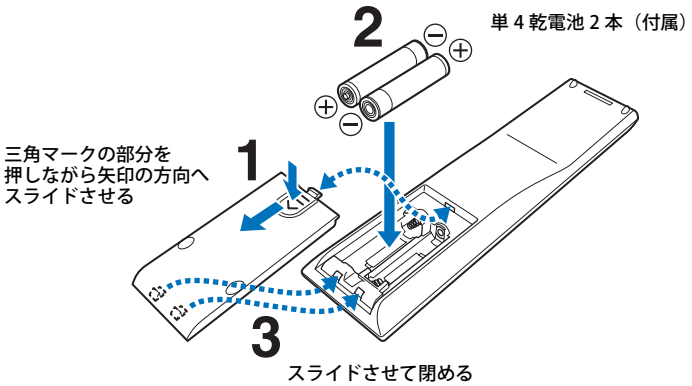
3 図のように設置する。



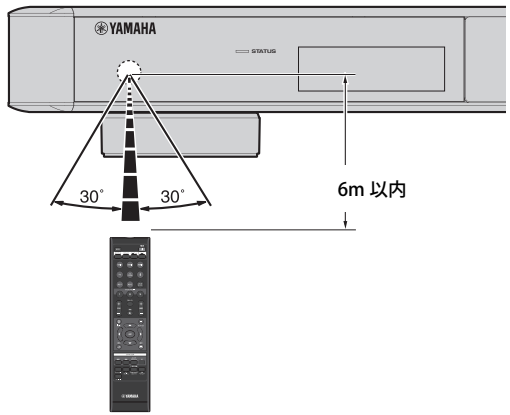
リモコンの準備

電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」の「電池」（76 ページ）および「リモコン」（78 ページ）をよくお読みください。

電池を入れる

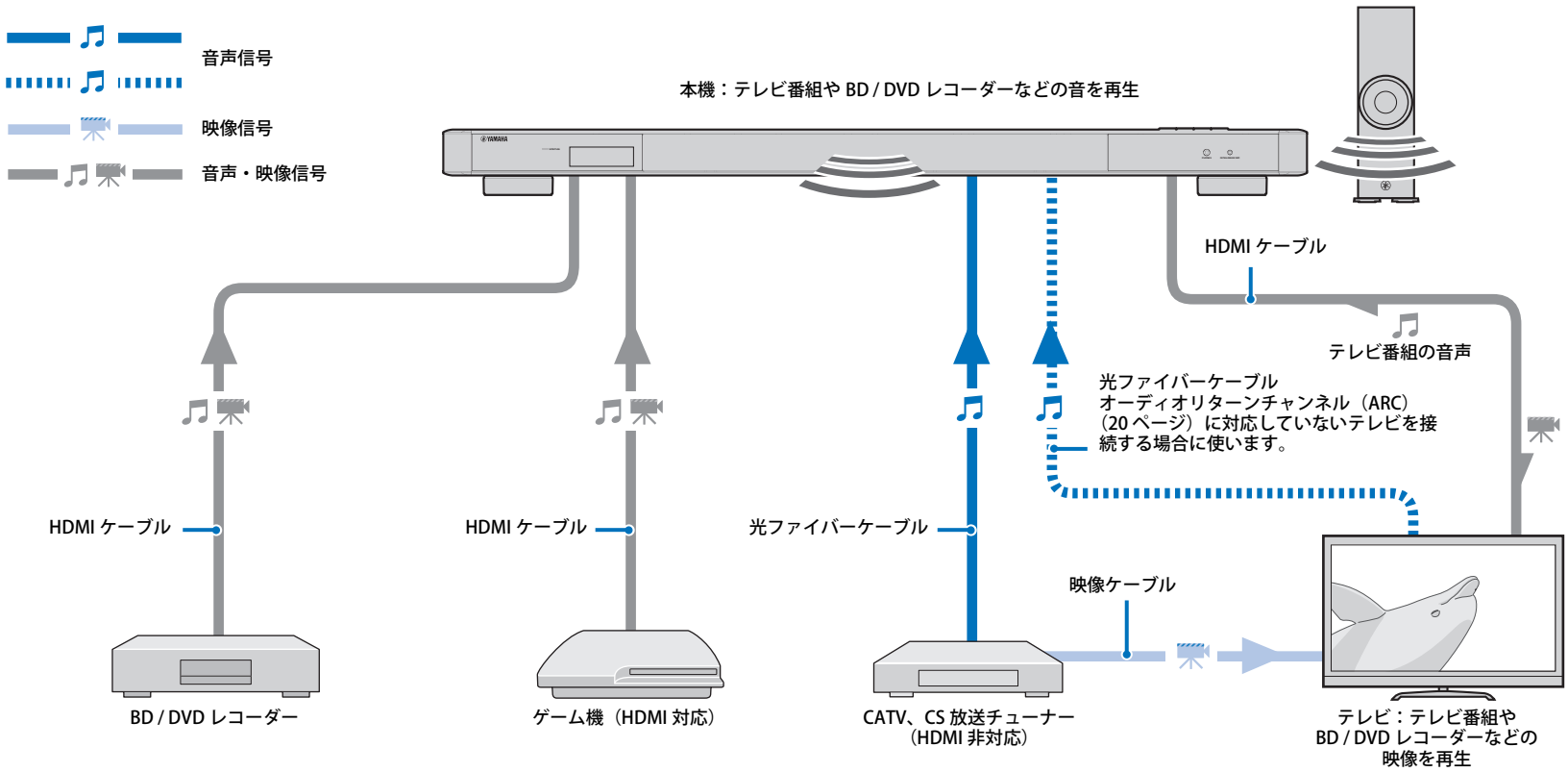


操作範囲



接続する

本機にテレビとブルーディスクレコーダーやゲーム機などを接続すると、音と映像は下図のように伝達されます。
それぞれの機器の接続については、20 ページから 24 ページをご覧ください。



- 電源コードは、すべての接続が完了してから接続してください。
- ケーブルのプラグや端子が破損する原因となりますので、プラグを差し込むときに強い衝撃をあたえないようにしてください。

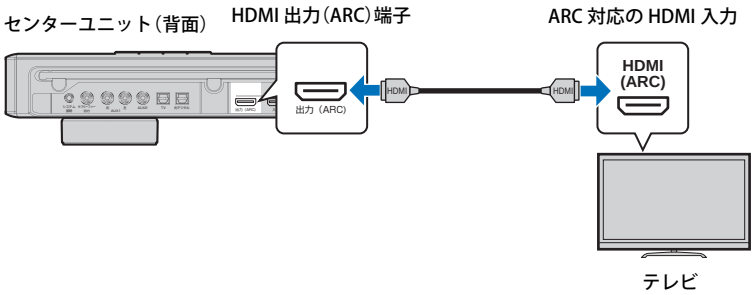
テレビを接続する

テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビ番組の音声を本機で楽しむこともできます。

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

オーディオリターンチャンネル（ARC）対応テレビの場合

市販の HDMI ケーブルを使って、テレビを本機に接続します。



オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビを使用する場合は、HDMI コントロール機能をオンにしてください（53 ページ）。

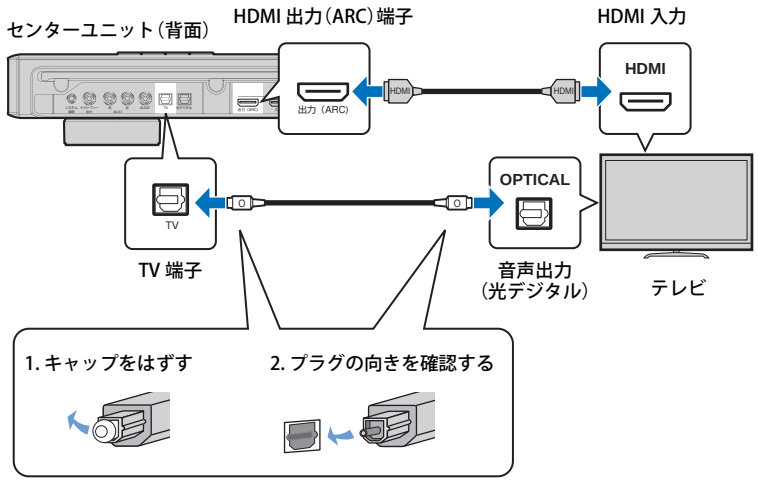
オーディオリターンチャンネル（ARC）とは

1 本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。テレビが ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

- ARC 対応の HDMI ケーブルをお使いください。

オーディオリターンチャンネル（ARC）非対応のテレビの場合

市販の HDMI ケーブルと付属の光ファイバーケーブルを使って、テレビを本機に接続します。



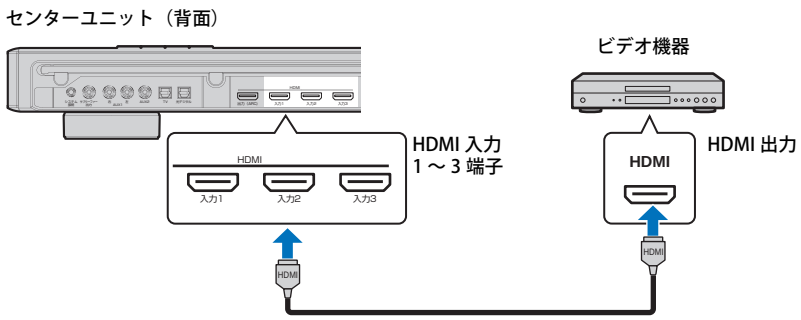
- **テレビに光端子がない場合**
  テレビの音声を AUX2 端子（同軸）または AUX1 端子（アナログ）から入力できます。接続に応じて設定メニューの「TV インプット」を「コアキシャル［AUX2］」または「アナログ［AUX1］」に変更してください（54 ページ）。

再生機器を接続する

BD / DVD レコーダー、衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機などのビデオ機器を本機に接続します。接続するビデオ機器の出力端子（映像 / 音声）により、接続方法を選んでください。ビデオ機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。

HDMI 接続

市販の HDMI ケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。

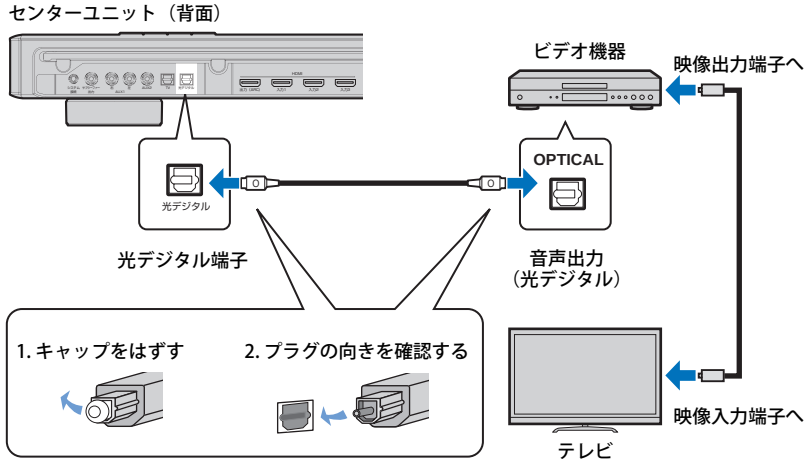


HDMI1 ～ 3 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- HDMI コントロール機能をオンにすると（31 ページ）、本機の電源がオフのときでもテレビで再生機器の映像や音声を再生できます（HDMI 信号パススルー）。
- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

光デジタル接続

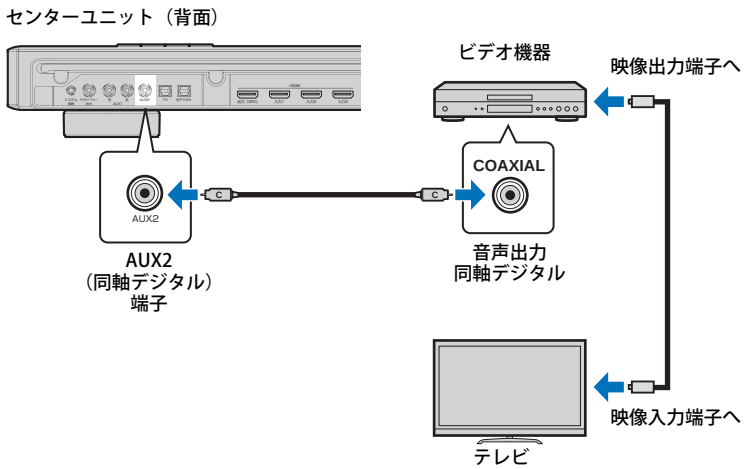
光ファイバーケーブル（付属）を使ってビデオ機器を本機に接続し、ビデオ機器の映像出力とテレビ映像入力を接続します。



光デジタルキーで入力を光デジタルに切り替えると、ビデオ機器の音声が本機から出力されます。

同軸デジタル接続

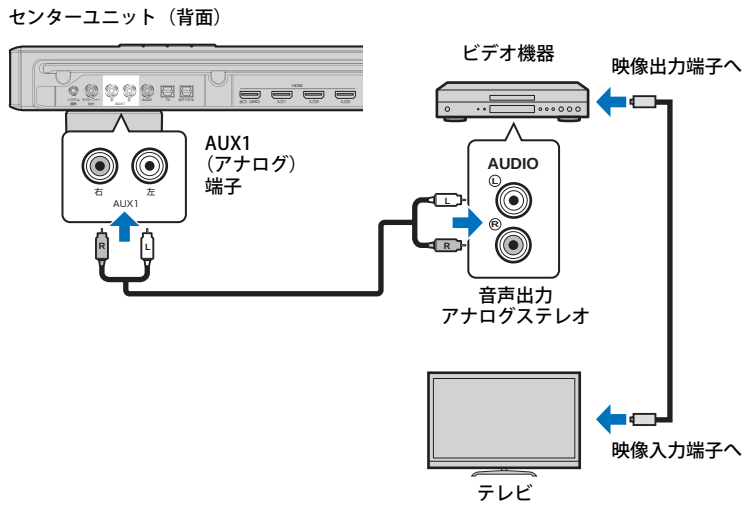
市販の同軸デジタルケーブルを使ってビデオ機器を本機に接続し、ビデオ機器の映像出力とテレビの映像入力を接続します。



AUX2 キーで入力を AUX2 に切り替えると、ビデオ機器の音声が本機から出力されます。

アナログ接続

市販の RCA ステレオケーブルを使ってビデオ機器を本機に接続し、ビデオ機器の映像出力とテレビの映像入力を接続します。

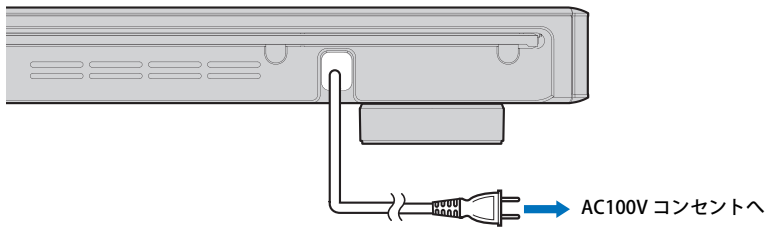


AUX1 キーで入力を AUX1 に切り替えると、ビデオ機器の音声が本機から出力されます。

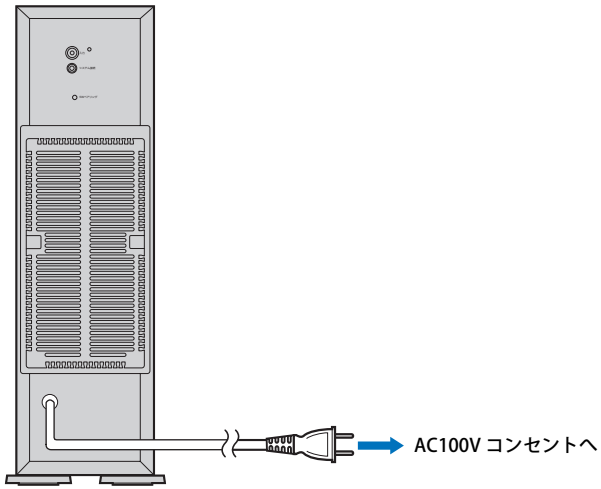
電源コードを接続する

センターユニットとサブウーファーの電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

センターユニット

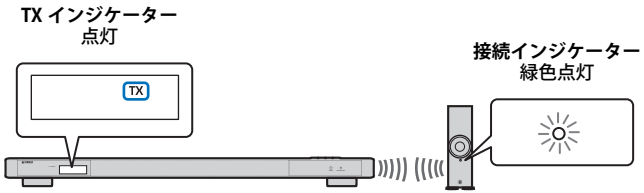


サブウーファー



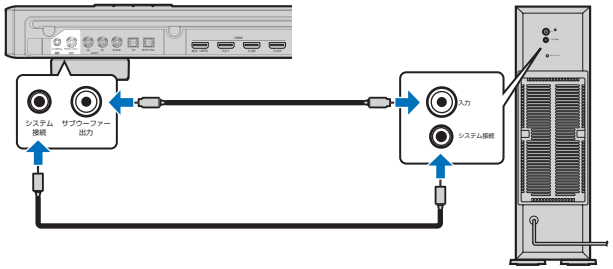
サブウーファーを接続する

サブウーファーの電源コードをコンセントに接続し、センターユニットの電源をオンにすると、センターユニットとサブウーファーは自動的に無線接続されます。接続が完了すると、インジケーターが以下のように点灯し、再生可能な状態になります。



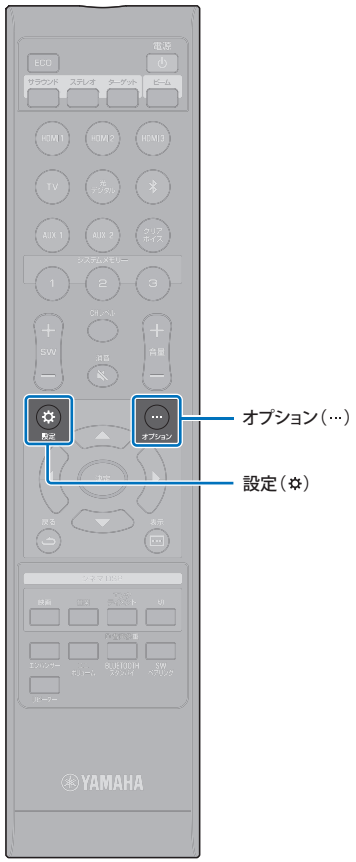
- 初めてセンターユニットの電源をオンにしたときに、インジケーターが正常に点灯しない場合は、センターユニットとサブウーファーを手動でペアリングしてください。詳しくは「センターユニットとサブウーファーのペアリング」（69 ページ）をご覧ください。

他の機器が発する電波の影響などにより、無線接続でサブウーファーの音が出なかったり、音が途切れたりするときは、センターユニットとサブウーファーを市販の RCA モノラルケーブルと市販の 3.5mm モノラルミニプラグケーブルで接続することで改善できます。3.5mm モノラルミニプラグケーブルは、センターユニットと連動してサブウーファーの電源をオン / オフするために必要です。



センターユニットとサブウーファーをケーブルで接続する場合は、設定メニューの「サブウーファー」の「無線機能」を必ずオフにしてください（50 ページ）。
センターユニットの電源をオンにするとサブウーファーの電源がオンになり、接続インジケーターが緑色で点灯します。

- センターユニットの電源を切った状態で接続してください。
- 付属のサブウーファー以外は接続できません。



メニュー画面をテレビに表示する

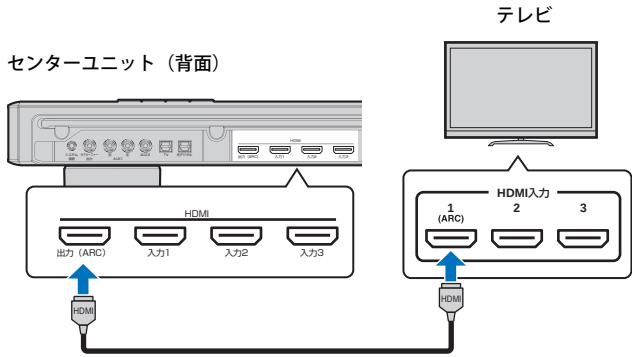
メニュー画面などをテレビに表示することで、視覚的に操作を進められます。

テレビのリモコンの入力切り替えボタンで本機からの入力にしてください。

本機とテレビを下図のように接続したときは、入力切り替えボタンで「HDMI 1」を選びます。

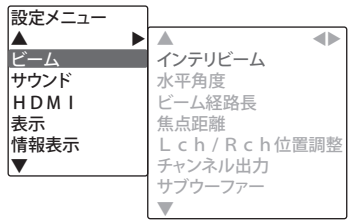
テレビのリモコン（例）





メニュー表示を確認する

設定（✲）キーやオプション（…）キーを押すと、メニューがテレビに表示されます。HDMI の入力信号があるときは、映像の上にメニューが表示されます。設定（✲）キーまたはオプション（…）キーをもう一度押すと、メニューが終了します。



- 設定メニュー（45 ページ）はテレビのみに表示されます。前面ディスプレイには表示されません。

サラウンド効果を自動設定する（インテリビーム）

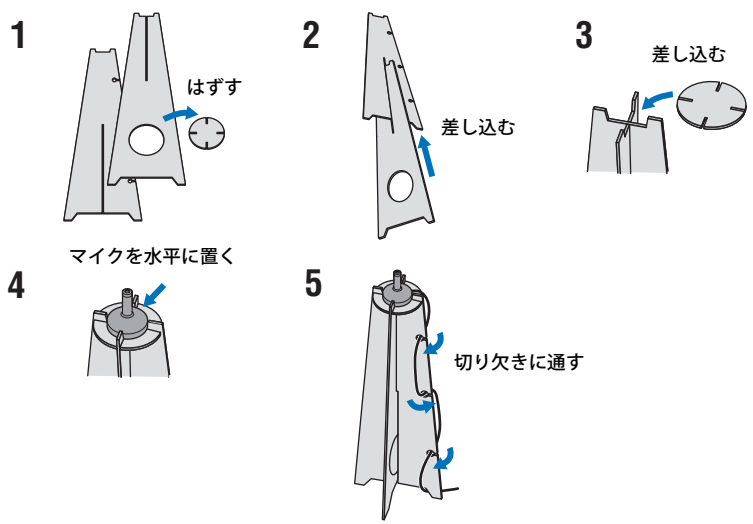
本機を最適な視聴空間でご利用いただくためには、最初に「インテリビーム」機能を使って、各チャンネルを調節してください。

- 部屋の環境が「推奨できない視聴環境」（14 ページ）にあてはまる場合は、測定が正しくできないことがあります。このような部屋でも、マイサラウンド機能により豊かなサラウンドを楽しむことができます。詳しくは「サラウンドの音声出力を切り替える」（36 ページ）をご覧ください。
- インテリビームマイクは、延長ケーブルを使って接続しないでください。測定が正しくできないことがあります。

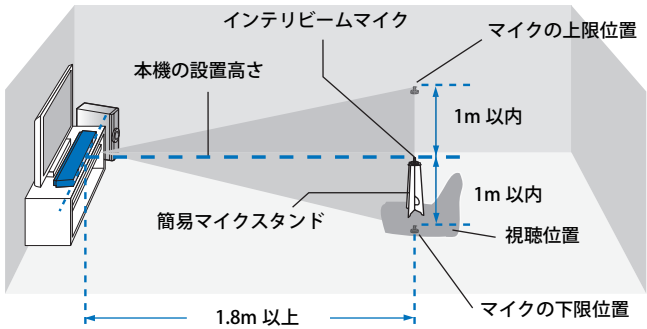
インテリビームマイクを設置する

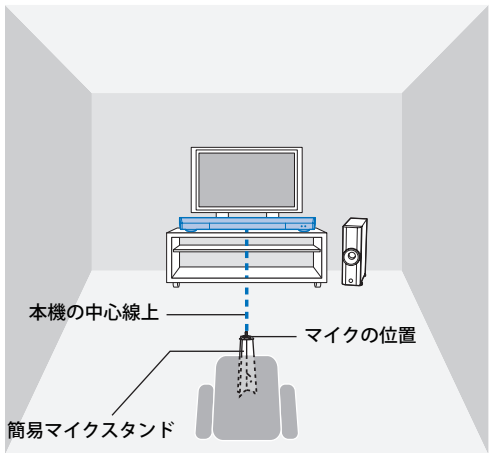
1 インテリビームマイクを視聴位置に設置する。

❑ 簡易マイクスタンドの組立て方法



- 簡易マイクスタンド（付属）や三脚を利用して、マイクをできるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。
- マイクは床と水平になるように置いてください。





ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。



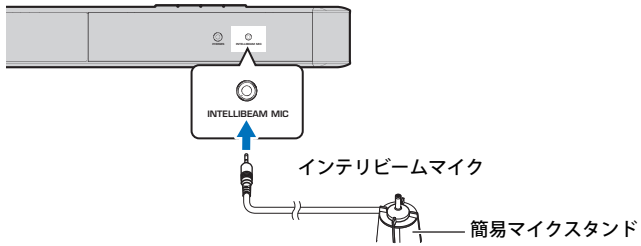
測定する

- 測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様が部屋にいる場合や部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
- 壁にカーテンやブラインドなどがかかっている部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。そのような部屋で測定する場合、以下の手順で設定することをおすすめします。
  ① カーテンやブラインドを開ける　②「ビーム調整」をする（28 ページ）
  ③ カーテンやブラインドを閉める　④「音質調整」をする（28 ページ）
- エアコンなど動作音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。

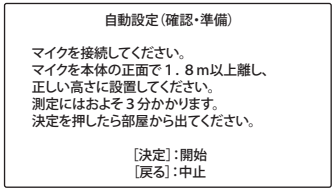
1 本機とテレビの電源をオンにする。

2 テレビの入力を本機からの映像に切り替える（25 ページ）。

3 インテリビームマイクを本機のインテリビームマイク端子に接続する。



インテリビームマイクを接続すると、以下の画面になります。



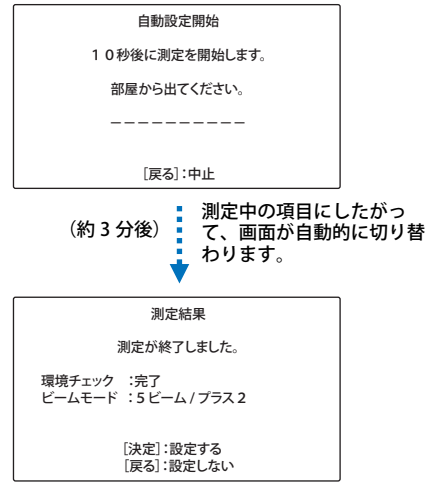
次の 2 つの設定を自動的に調節します。

ビーム調整	部屋の形状や大きさなどに応じて、各チャンネルのビーム角度を最適な設定値に調節します。
音質調整	部屋の音響特性などを測定し、各チャンネルの音色を最適な設定値に調節します。

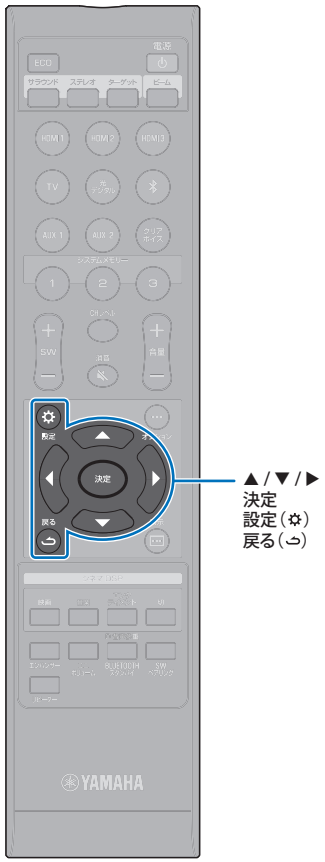
設定メニューから「ビーム調整」と「音質調整」を個別に測定することもできます（28 ページ）。

- 次の手順を実行したあと、部屋から出てください。部屋の中にいると、ビーム経路を遮ってしまったり、マイクが声や音を拾ってしまったりして、測定が正しくできないことがあります。

4 決定キーを押して測定を開始し、10 秒以内に部屋の外に出る。



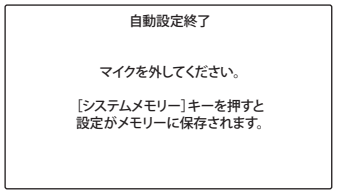
測定が終了すると終了音（チャイム音）が出力されます。



- 測定開始から終了まで、約 3 分かかります。
- 測定中に「自動設定」を中止するとき、または測定結果を設定しないときは、戻る（⤺）キーを押してください。
- エラー音（ブザー音）が鳴ったときは、画面のエラーメッセージを確認し、「エラーメッセージが表示されたら」（30 ページ）をご覧ください。
- 「ビームモード：5 ビーム」と表示された場合でも、部屋の状況によっては、フロントビームとサラウンドビームが同じ角度に設定されることがあります。

5 決定キーを押す。

測定結果を本機に設定し、保存します。



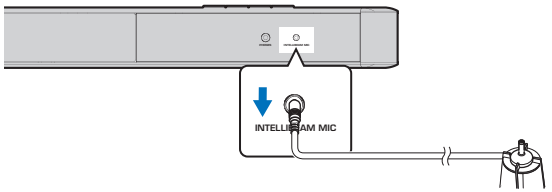
- システムメモリー 1、2 または 3 キーを押して、複数の測定結果を保存することもできます。
  システムメモリー 1 キーを押したときは、「M1 Saving」と表示され、設定が保存されます。
- 測定中に環境ノイズを拾った場合は、「自動設定終了」画面に再設定をおすすめするメッセージが表示されます。決定キーを押すと、もう一度測定を開始します。

- システムメモリー機能については、41 ページをご覧ください。

6 マイクをはずす。

「自動設定終了」画面が消えます。

インテリビームマイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。



❑ 設定メニューから自動設定する場合

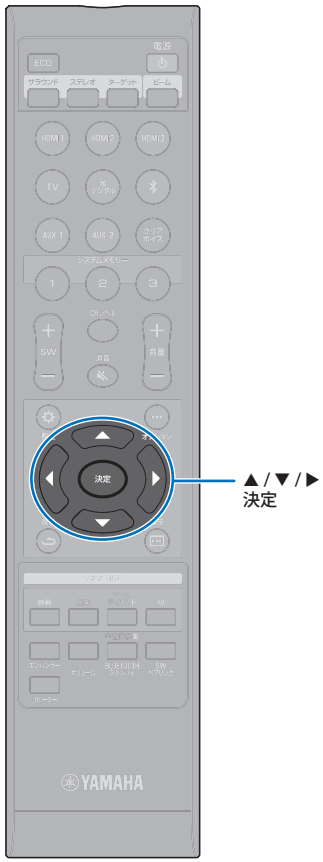
「ビーム調整」と「音質調整」を個別に調節するときは、設定メニューから設定します。

1 インテリビームマイクを視聴位置に置き、設定（✲）キーを押す。

インテリビームマイクの置きかたについては、「インテリビームマイクを設置する」（26 ページ）をご覧ください。

2 ▲/▼ キーで「ビーム」を選び、▶ キーまたは決定キーを押す。

3 ▲/▼ キーで「インテリビーム」を選び、▶ キーまたは決定キーを押す。



4 ▲/▼ キーで次の選択項目の中からいずれかを選び、▶ キーまたは決定キーを押す。

選択項目：

ビーム調整＋音質調整	購入後、初めて設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約 3 分です。
ビーム調整	ご利用の環境に合わせてビーム角度のみ設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約 1 分です。
音質調整	音質、音量バランス、音が聞こえるタイミングを設定する場合に選択します。測定開始から終了まで約 2 分です。 「音質調整」はビーム角度を設定したあとで実行してください。カーテンの開閉後、またはビーム角度を「ビーム調整」で調節したあとなどに使います。

5 「自動設定（確認・準備）」画面が表示されたら、インテリビームマイクを接続する。

インテリビームマイクの接続については「測定する」（27 ページ）をご覧ください。

6 「測定する」の手順 4、5、6 にしたがい設定をしたあと、マイクをはずす。

- 設定メニューから自動設定をした場合は、測定終了後、自動的に設定メニューのメニュー選択画面に戻ります。

❑ エラーメッセージが表示されたら

テレビ画面にエラーメッセージが表示された場合は以下の「エラーメッセージ一覧表」で原因を確認し、問題を解決してから、画面の指示にしたがって測定をやり直してください。

エラーメッセージ一覧表

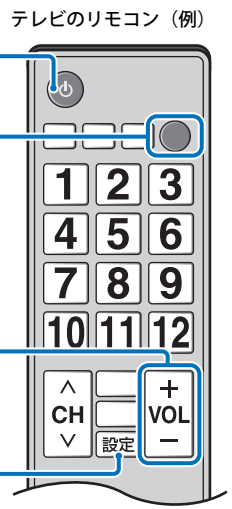
エラーメッセージ	原因	対策
エラー　E-1: 環境ノイズが大きすぎます。	雑音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど動作音を発生する機器の電源を一時的に切るか、それらの機器から離してください。
		周囲が静かな時間帯にやり直してください。
エラー　E-2: マイクの接続をチェックしてください。再度、実行してください。	インテリビームマイクが取りはずされました。	本機背面のインテリビームマイク端子にインテリビームマイクを接続し、測定をやり直してください。
エラー　E-3: 測定中に操作されました。再度、実行してください。	測定中に音量の調節、消音などの操作が行われました。	測定中は本機を操作しないように注意し、測定をやり直してください。
エラー　E-4: マイクを本体の正面に設置してください。再度、実行してください。	インテリビームマイクが本機正面に置かれていません。	インテリビームマイクを本機正面に設置し、測定をやり直してください。
エラー　E-5: マイクを本体から 1.8m 以上離して設置してください。再度、実行してください。	インテリビームマイクが本機から 1.8m 未満の場所に設置されています。	インテリビームマイクを本機から 1.8m 以上離して設置し、測定をやり直してください。
エラー　E-6: マイクから十分な入力がありません。マイクの接続・設置位置を確認してください。再度、実行してください。	テスト音が取得できません。	インテリビームマイクを正しく設置し、接続を確認してから測定をやり直してください。
エラー　E-7: エラーです。パワーをオフした後、再度、実行してください。	本機内部にエラーが発生しました。	電源（⏻）キーを押して本機をオフにしたあと、再び電源を入れ、測定し直してください。
エラー　E-8: ヘッドホンが接続されています。ヘッドホンの接続を外した後、再度、実行してください。	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンをはずし、測定をやり直してください。
エラー　E-9: サブウーファーの接続を確認してください。	サブウーファーが正しく接続されていません。	サブウーファーが接続されているかを確認し（24 ページ）、設定メニューの「ビーム」→「サブウーファー」→「無線機能」を設定してから測定をやり直してください。

テレビのリモコンで本機を操作する（HDMI コントロール機能）

HDMI コントロール機能とは

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます（HDMI コントロール）。また HDMI ケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD / DVD レコーダーなど）も操作できます。

テレビのリモコン操作による連動機能



まず、テレビのリモコンで上記の操作を試してください。本機を操作できる場合は、そのままお使いください。また、HDMI コントロール機能をオンにするだけで本機能を使用できる HDMI 機器もあります。操作できない場合は、HDMI コントロールに関する設定をしてください（32 ページ）。

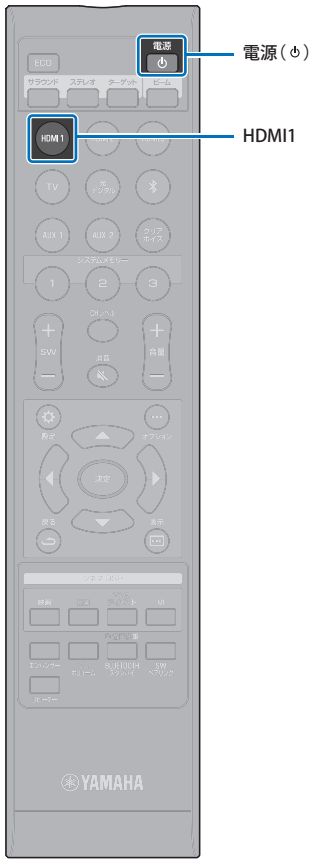
このほか一部のテレビでは以下の機能を操作できます。

- デジタル放送のジャンル情報に合わせて最適なシネマ DSP 音場プログラム（34 ページ）を自動的に選択（おまかせサラウンド機能）。
- ユニボリューム機能のオン / オフ
- デジタル音声多重の切り替え
- テレビに表示される本機のメニュー操作

- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、一部機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびレコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 対応するテレビやレコーダーなどの機器については、下記 WEB サイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

おまかせサラウンド機能

- この機能は、デジタル放送に組み込まれた番組情報のジャンル情報をもとにシネマ DSP 音場プログラム（34 ページ）を切り替えます。テレビ放送や、テレビの録画機能を使って録画した番組を再生するときに有効に動作します。ほかの番組に移行したり、チャンネルを切り替えたりしたときは、選択した番組に応じてプログラムが切り替わります。
- おまかせサラウンド機能を使うには、対応するテレビと本機を HDMI ケーブルで接続し、HDMI コントロール機能を有効にしてください（53 ページ）。また、テレビの設定を AV システムと連動するように変更する必要があります。設定はお使いのテレビにより異なります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 対応するテレビについては下記 WEB サイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/omakase_surround/



HDMI コントロール機能の設定

1 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。

2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD / DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。

本機の「HDMI コントロール」が「オン」（初期設定）に設定されていることを確認します（53 ページ）。

再生機器については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。

4 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

6 本機の入力を BD / DVD レコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。

BD / DVD レコーダーを HDMI 入力 1 端子で接続している場合は、HDMI1 キーを押します。



7 テレビのリモコンを使って電源オフ、音量調節などを操作して、本機が連動するか確認する。

連動機能が動作しないときは

以下のように正しく接続や設定しているか、ご確認ください。

– 「HDMI コントロール」（53 ページ）が「オン」に設定されている

– テレビ側の設定で HDMI コントロール機能が有効になっている

テレビの設定の例

- 設定メニューから「リンク設定」→「HDMI 連動設定」（例）を選択し、「HDMI 連動機能」などの項目を「連動する（使用する）」に設定してください。
- テレビの音声出力先の設定を、テレビ以外に設定してください。

それでも連動機能が動作しない場合は、

– 本機およびテレビの電源を一度オフにしてからオンにしてください。

– 本機および HDMI 接続している機器の電源プラグをコンセントからはずし、30 秒ほど経ってから、接続し直してください。

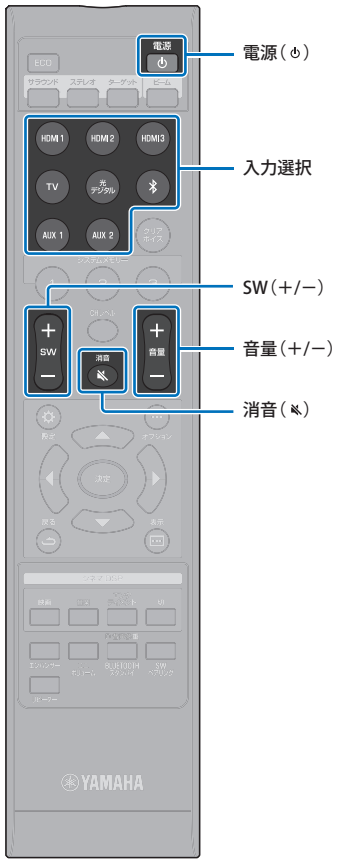
– 光デジタル、AUX1 または AUX2 を入力したあとは、テレビの入力と本機の入力を HDMI 接続した機器に切り替えてください。

接続方法や接続機器を変更する

接続する機器や端子を変更した場合は以下の手順で再設定してください。

1 テレビやレコーダーの HDMI コントロール機能をオフにしてから、すべての機器の電源をオフにし、接続を変更する。

2 「HDMI コントロール機能の設定」の手順 1 ～ 7 を再度操作する。



再生する

再生の基本手順

1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオンにする。

2 本機に接続した機器（テレビ、BD / DVD レコーダー、ゲーム機など）の電源をオンにする。

3 再生機器の接続に合わせて入力選択キーを押し、視聴する機器の入力を選ぶ。

HDMI 入力 1 端子に接続した BD / DVD レコーダーを再生する場合は、HDMI1 キーを押します。



4 手順 3 で選択した機器を再生する。

5 音量を調節するには、音量（＋ / －）キーを押す。

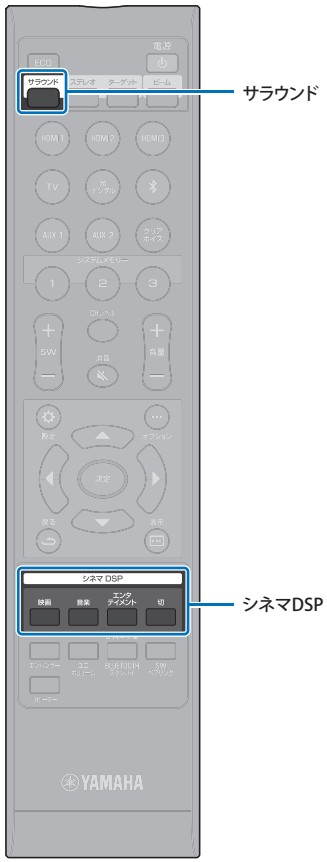
サブウーファーの音量を調節するには、SW（＋ / －）キーを押す。

- テレビのスピーカーと本機の両方から音声が出力されている場合は、テレビを消音にしてください。
- HDMI 入力音声をテレビから出力している場合は、リモコンの音量（＋ / －）キーや消音（🔇）キーを押しても音量は変化しません。
- 一時的に消音にするには、リモコンの消音（🔇）キーを押します。前面ディスプレイの VOL インジケーターが点滅します。消音を解除するには再度消音（🔇）キーを押すか音量（＋ / －）キーを押します。

- サブウーファーの音量は全体の音量と独立して設定できます。
- 夜はサブウーファーの音量を小さくするなどしてお楽しみいただくことをおすすめします。

6 サラウンド再生、ステレオ再生、ターゲット再生などを選び、お好みのサウンドに設定する（34 ページ）。

使用後は、電源（⏻）キーを押し、本機の電源をオフにする。



お好みのサウンドを楽しむ

本機にはサウンドをより楽しめる以下のような機能があります。

- サラウンド再生
- シネマ DSP
- 音声ビームの出力方法の切り替え（36 ページ）
- ステレオ再生（38 ページ）
- ターゲット再生（38 ページ）
- ヘッドホンを使う（38 ページ）
- ミュージックエンハンサー（39 ページ）
- クリアボイス（39 ページ）
- 各チャンネルの音量調整（39 ページ）

サラウンドで再生する

音声ビームでサラウンド再生を楽しめます。

1 サラウンドキーを押してサラウンド再生に切り替える。

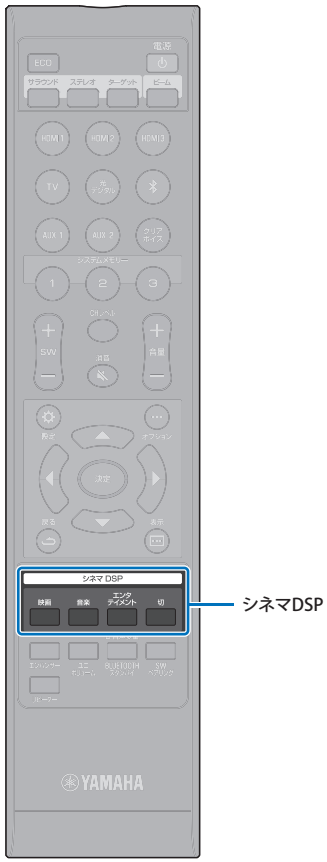
臨場感のあるサラウンド音声を楽しむ（シネマ DSP）

ヤマハ独自のシネマ DSP 技術を用いて、再生する音源に合った音場（音の広がり）をサラウンドで再生します。

1 シネマ DSP キー（映画、音楽またはエンタテイメント）を繰り返し押してプログラムを選ぶ。

選択したプログラムが前面ディスプレイに表示され、CINEMA DSP インジケーター（8 ページ）が点灯します。

- 次の場合はシネマ DSP の機能は無効です。
  - サンプリング周波数が 48kHz を超える信号を再生している
  - マイサラウンド機能を使用している（37 ページ）
- 入力ごとに設定されたモードを記憶します。他の入力を選ぶと、自動的に前回設定されたモードになります。



❑ 本機のシネマ DSP

映画（映画キーで切り替え）

SFX	音楽および効果音が、SF の映像空間をリアルに表現します。シリアスでストーリー性の高い SFX 映画に適しています。
Adventure（アドベンチャー）	音の立体感が強く、アクションならではの痛快な臨場感をつくりだします。
Spectacle（スペクタクル）	ワイドな空間をイメージできる臨場感をつくりだします。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に適しています。

音楽（音楽キーで切り替え）

Music Video（ミュージックビデオ）	ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。映像 / 音場空間がスクリーン周囲に大きく広がり、熱狂的な雰囲気を感じることができます。
Concert（コンサート）	ミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールの 1 階座席にいるような臨場感をつくりだします。豊麗な響きと落ち着いた雰囲気を感じることができます。
Jazz Club（ジャズクラブ）	ニューヨークにかつて存在したライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面にいるような臨場感をつくりだします。左右の幅が広く、リアルな躍動感を感じることができます。

エンタテイメント（エンタテイメントキーで切り替え）

Sports（スポーツ）	スポーツ中継のステレオ放送では、解説は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がって、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。
Variety（バラエティー）	トークの聞き取りやすさはそのままに、客席の賑やかさが周りを包み込んで、番組の楽しさが倍増します。バラエティー番組、トークショーなどをライブ感豊かに楽しめます。
Drama（ドラマ）	セリフは明瞭さを保ちつつ質感を高め、効果音や BGM には自然な雰囲気と立体感を与えます。シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの番組に対応します。
Game（ゲーム）	RPG や、アドベンチャーゲームなどに最適な音場です。映画用の音場効果などを用いて、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を楽しめます。

シネマ DSP を使用しない（切キーを押す）

DSP Off	シネマ DSP を使わずに再生します。2 チャンネルの音源の場合はサラウンドに拡張します。使用するサラウンドデコーダーを選択することができます（52 ページ）。



サラウンドの音声出力を切り替える

最適なサラウンド効果で楽しむために、視聴するコンテンツや部屋の状況などに合わせて、音声ビームの出力方法を選べます。「音声ビーム出力の種類と特長」（37 ページ）を参考にして、音声ビームの出力方法を選んでください。

1 ビームキーを押して、音声ビームの出力方法を切り替える。

音声ビームのチャンネル出力設定（49 ページ）により、以下の出力方法を選べます。

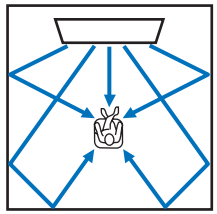
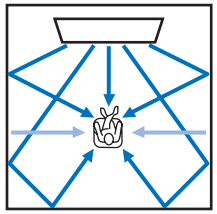
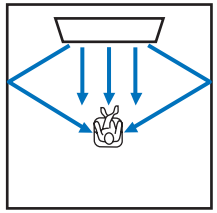
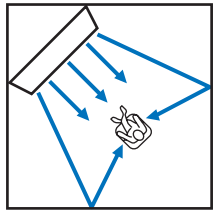
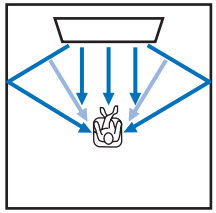
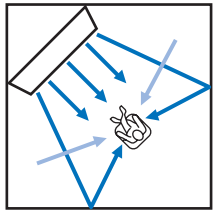
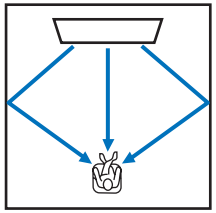
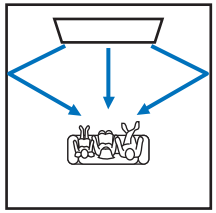
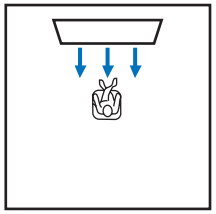
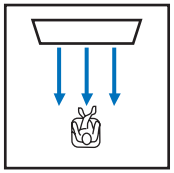
チャンネル出力	音声ビームの出力方法
5.1ch	5BEAM（5 ビーム） ST ＋ 3BEAM（ステレオ＋ 3 ビーム） 3BEAM（3 ビーム） MY SUR.（マイサラウンド）
7.1ch	5BEAM ＋ 2（5 ビームプラス 2） ST ＋ 3BEAM ＋ 2（ステレオ＋ 3 ビーム プラス 2） 3BEAM（3 ビーム） MY SUR.（マイサラウンド）

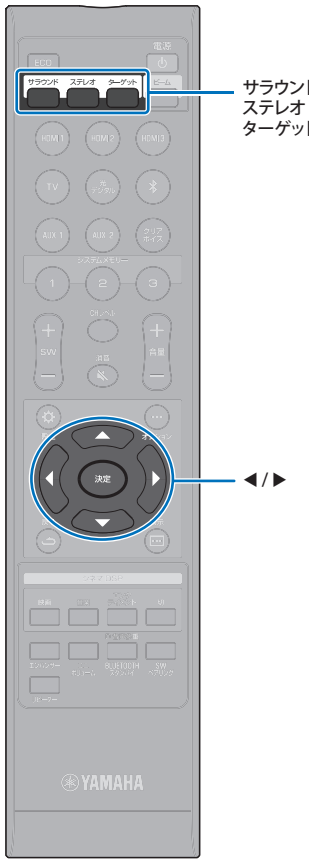
- 音声ビームのチャンネル出力設定は、初期設定で「自動」になっています（49 ページ）。「自動」の設定では、入力信号により下記のように適切なチャンネル数で出力します。

  入力信号が 2ch / 5.1ch のとき→ 5.1ch 出力

  入力信号が 6.1ch / 7.1ch のとき→ 7.1ch 出力
- 5.1ch または 7.1ch 出力に固定することもできます。
- ヘッドホンを使用しているときは、「SURROUND」と表示します。音声ビームの出力方法は切り替えできません。

❑ 音声ビーム出力の種類と特長

目的 / 想定シーン	音声ビームの出力方法
映画などでサラウンドの効果を存分に味わいたい場合	 **5BEAM（5 ビーム）** フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右の各チャンネルから音声ビームを出力します。  **5BEAM+2（5 ビーム プラス 2）** フロント左 / 右、センター、サラウンドバック左 / 右の各チャンネルから音声ビームを出力します。サラウンド左チャンネルは、フロント左とサラウンドバック左チャンネルにミックスされます。音声ビームのフロント左とサラウンドバック左チャンネルからサラウンド左チャンネル（→）の音像ができます。右チャンネルも同様です。
ライブ映像などを鑑賞する場合	  **St+3BEAM（ステレオ +3 ビーム）** フロント左 / 右のステレオ音声に加え、センター、サラウンド左 / 右の各チャンネルから音声ビームを出力します。   **St+3BEAM+2（ステレオ +3 ビームプラス 2）** フロント左 / 右のステレオ音声に加え、センター、サラウンドバック左 / 右の各チャンネルから音声ビームを出力します。サラウンド左チャンネルは、フロント左とサラウンドバック左チャンネルにミックスされます。音声ビームのフロント左とサラウンドバック左チャンネルからサラウンド左チャンネル（→）の音像ができます。右チャンネルも同様です。
数人で映画を見るときや、後方の壁に近い位置で鑑賞する場合	  **3BEAM（3 ビーム）** フロント左 / 右、センターの各チャンネルから音声ビームを出力します。その他のチャンネルはフロント左 / 右にミックスされます。
視聴位置が本機から近い場合や、部屋の都合でサラウンド効果が十分に得られない場合	  **MY SUR.（マイサラウンド）** 視聴位置が本機正面の場合に効果を発揮します。他のサラウンド出力方法の設定ではサラウンド効果が十分に得られない環境でもサラウンド感溢れる音声を楽しむことができます。



2 チャンネルで再生する（ステレオ再生）

フロントのチャンネルをメインにしてステレオ再生します。

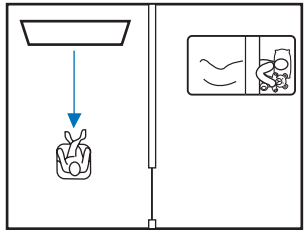
1 ステレオキーを押して、ステレオ再生に切り替える。

特定の位置に音声を届ける（ターゲット再生）

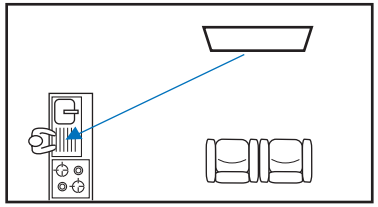
音声ビームを 1 チャンネルで出力して、特定の位置にいる視聴者が最適に視聴できるようにします。

以下のような場合を参考にしてターゲット再生をお楽しみください。

夜間など、周囲に音を響かせたくないとき



キッチンなど離れた位置からセリフなどをはっきりと聞き取りたいとき



再生しながらビーム角度を調節します。

1 ターゲットキーを押す。

2 ◀/▶ キーで左右のビーム角度を調節する。

◀ キーを押すたびに左方向の角度が 2 度ずつ大きくなり、▶ キーを押すたびに右方向の角度が 2 度ずつ大きくなります。左右 90 度まで調節できます。

左 16 度に調節したとき



ターゲット再生をオフにする

サラウンドキーまたはステレオキーを押します。

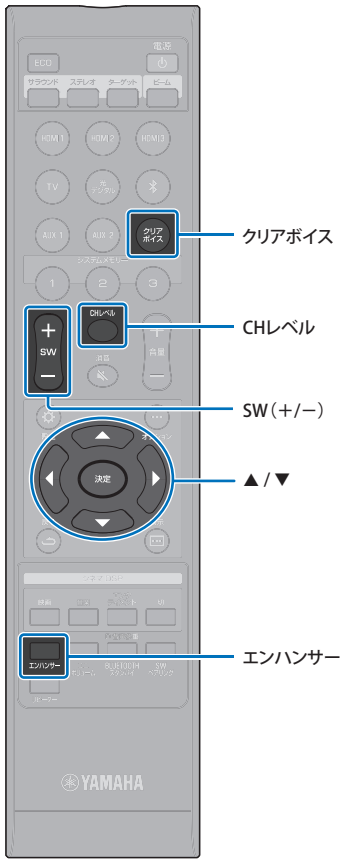
- ターゲット再生中は、シネマ DSP は無効です。
- 他の方向へ音が広がるのを防止するため、低音域を制限して出力しています。

ヘッドホンでサラウンドを楽しむ

ヘッドホンを PHONES 端子に接続します。

バーチャルサラウンドヘッドホン技術により、ヘッドホンを使う場合でも、スピーカーによる再生と同様にサラウンド音声やステレオ音声をお楽しみいただけます（38 ページ）。また、シネマ DSP（34 ページ）やおまかせサラウンド機能（31 ページ）も使えます。

- ヘッドホンの音量と音色（BASS / TREBLE）（58 ページ）は、スピーカーとは別に設定できます。



MP3 などの圧縮音声を豊かに再生する（ミュージックエンハンサー）

MP3 などの圧縮音声に不足しがちな、低音域と高音域を強調、拡張し、より豊かな音で再生します。

1 エンハンサーキーを押して、ミュージックエンハンサーをオンにする。

もう一度押すと、オフになります。

- 初期設定では *Bluetooth* 入力時はオン、それ以外の入力時はオフに設定されています。
- 次のデジタル音声信号の場合、ミュージックエンハンサーは動作しません。
  - HD オーディオ信号（ドルビー TrueHD、DTS-HD マスターオーディオなど）
  - サンプリングレートが 48kHz を超える信号
- 入力ごとにオン / オフを記憶します。他の入力を選ぶと、自動的に前回の状態になります。

人の声を明瞭に再生する（クリアボイス）

映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声を聞きやすく再生します。

1 クリアボイスキーを押して、クリアボイスをオンにする。

もう一度押すと、オフになります。

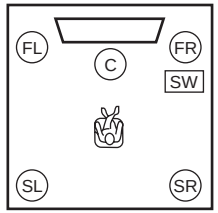
各チャンネルの音量を調整する

各チャンネルの音（それぞれの方向からの音）がバランス良く聞こえるように、再生しながらチャンネルごとの音量を調整します。

- テスト音を聴きながら調節する場合は「チャンネルレベル」（50 ページ）をご覧ください。

1 CH レベルキーを押して、以下から調節したいチャンネルを選ぶ。

FL：フロント左
FR：フロント右
C：センター
SL：サラウンド左
SR：サラウンド右
SW：サブウーファー



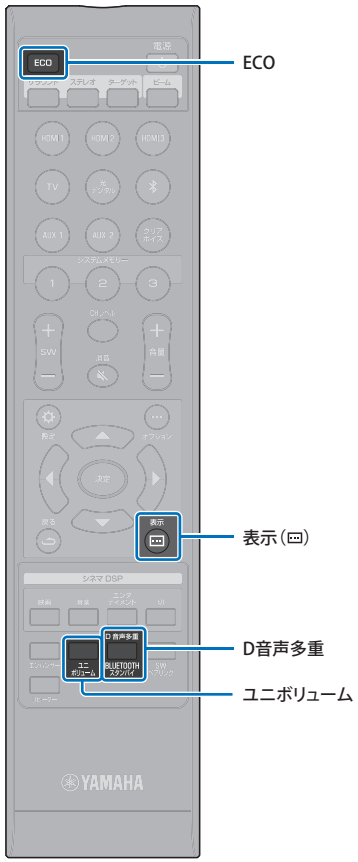
- ステレオ再生（38 ページ）のときは SW（サブウーファー）の音量のみ調整できます。
- MY SUR.（マイサラウンド）を選択しているとき（37 ページ）は以下のチャンネルの音量を調整できます。
  C：センター
  SL / SR：サラウンド左右
  SW：サブウーファー

2 ▲/▼ キーを押して、音量レベルを調節する。

調節範囲：− 20 〜+ 20

音量バランスの調整例

- セリフが聞き取りにくい場合：C（センター）を選び、レベルを上げます。
  音の包囲感が少ない場合：SL (サラウンド左）と SR（サラウンド右）を選び、レベルを上げます。
- サブウーファーの音量は SW（+ / −）キーを使用して調整することもできます。



便利な機能を使う

音量の急激な変化をおさえる（ユニボリューム）

ユニボリュームをオン / オフします。ユニボリュームを使用すると、入力や音源が切り替わるときの音量差を自動的に補正します。

1 **ユニボリュームキーを押して、ユニボリュームをオンにする。**

もう一度押すと、オフになります。

- 初期設定はオフです。
- 音楽を再生するときは、オフにすることをおすすめします。

ニカ国語放送の音声を切り替える

BS / 地上デジタル放送のモノラル音声多重信号入力時に、再生する音声を選択します。

1 **D 音声多重キーを繰り返し押す。**

再生する音声の設定が切り替わります。

選択項目：MAIN、SUB、MAIN + SUB
MAIN（初期設定）：主音声を出力します。
SUB：副音声を出力します。
MAIN + SUB：主音声と副音声の両方を出力します。

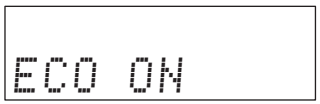
- この設定は DUAL インジケーターが点灯しているときに有効です。
- 副音声が収録されていない場合やステレオ音声多重信号の場合は、音声は切り替わりません。

エコ機能で節電する

エコ機能を使うと、本機の消費電力を低減できます。
オンにすると、前面ディスプレイが消灯し、最大音量が小さくなります。

1 **ECO キーを押す。**

以下のように表示したあと、前面ディスプレイが消灯します。



STATUS インジケーターの明るさは最小になります。

エコ機能をオフにする

ECO キーを押します。
「ECO OFF」が前面ディスプレイに表示されます。

- 大きな音量で再生する場合は、「エコ機能」を「オフ」にしてください。
- エコ機能をオンにすると、設定メニューの「ディマー」（54 ページ）と拡張メニューの「MAX VOLUME」（59 ページ）を設定することができません。

前面ディスプレイの情報表示を切り替える

入力名とサラウンドに関する情報を表示します。

1 **表示（⊡）キーを押す。**

表示（⊡）キーを押すたびに、以下のように切り替わります。
表示される情報は入力によって異なります。

Input：入力名（*Bluetooth* 入力時は、接続した機器名または「BLUETOOTH」と表示）
↓
Beam：音声ビームの設定（36 ページ）
↓
Decoder：動作しているデコーダー（52 ページ）
↓
Cinema DSP：シネマ DSP プログラム（34 ページ）



システムメモリーに本機の設定を保存する

3 種類の異なる設定を本機に保存し、使い分けることができます。以下の例を参考にして測定結果やサラウンドの設定などをシステムメモリーに保存し、状況に合わせて活用してください。

例 1　異なる環境でのインテリビーム測定結果を保存する

音声ビームの経路上にカーテンなどの吸音物がある場合には、ビームの効果が減少します。そこで、カーテンを開けた状態と閉じた状態で測定し、システムメモリー 1 と 2 にそれぞれ保存して使い分けます。

例 2　使用頻度の高い設定を保存する

システムメモリー 1： サラウンド設定

システムメモリー 2： ターゲット再生の角度をキッチンに向けた設定

システムメモリー 3： ターゲット再生の角度をリビングに向けた設定

例 3　視聴者ごとの好みに合わせた設定を保存する

システムメモリー 1： お父さん用

システムメモリー 2： お母さん用

システムメモリー 3： パーティー用

システムメモリーに保存できる設定：

- インテリビームの測定結果（27 ページ）
  インテリビームの測定結果を保存する方法については 28 ページをご覧ください。
  （設定メニュー（45 ページ）で「水平角度」、「ビーム経路長」、「焦点距離」、および「Lch / Rch 位置調整」を行った場合は、調整値がインテリビームの自動調整結果に上書きされます。）
- サラウンド再生（34 ページ）、ステレオ再生（38 ページ）、またはターゲット再生（38 ページ）
  （サラウンド再生では、音声ビームの出力方法（36 ページ）を含めて保存します。）
- サラウンド機能：シネマ DSP（34 ページ）
- チャンネルの音量（39、50 ページ）
- トーンコントロール（58 ページ）

システムメモリーに保存する

1 **システムメモリー 1、2 または 3 キーを「M1 Save？」と表示されるまで押す。**

押したキーに応じて、M1、M2、または M3 と表示されます。

2 **手順 1 で押したシステムメモリーキーを押す。**

システムメモリー 1 キーを押したときは、「M1 Saving」と表示され、設定が保存されます。

- 選択したメモリー番号に保存されている設定は、新しい設定に上書きされます。
- 拡張メニュー（59 ページ）の「MEMORY PROTECT」が「ON」になっている場合は、システムメモリーを設定することができません。

保存したメモリーを呼び出す

1 **設定を保存したシステムメモリー 1、2、または 3 キーを押す。**

システムメモリー 1 キーを押したときは、「M1 Load？」と表示されます。

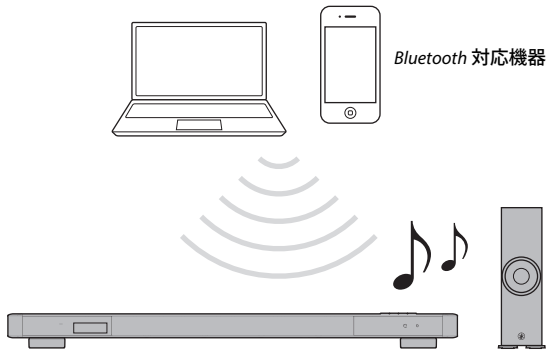
2 **手順 1 で押したシステムメモリーキーを押す。**

システムメモリー 1 キーを押したときは、「M1 Loading」と表示され、メモリーが呼び出されます。



Bluetooth 機器の音楽を聴く

スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの *Bluetooth* に対応した機器の音声を、ワイヤレスで再生することができます。
ご使用の際には、*Bluetooth* 対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



Bluetooth 対応機器を本機で楽しむには、以下の流れで操作してください。

はじめての操作 → **ペアリングを行う** → ***Bluetooth* 対応機器を接続して再生する**

2 回目以降の操作 → ***Bluetooth* 対応機器を接続して再生する**

本機に *Bluetooth* 機器を登録する（ペアリング）

はじめて接続するときは、*Bluetooth* 対応機器を本機に登録します。これを「ペアリング」といいます。
ペアリングは、最初に接続するときのみ必要です。

1 リモコンの ᛒ キーを押す。

入力が *Bluetooth* になります。

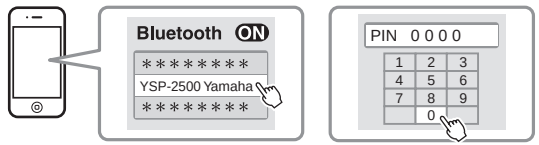


2 対応機器側の *Bluetooth* 機能をオンにして、ペアリング操作を行う。

対応機器により操作は異なります。お使いの機器の取扱説明書をご確認ください。

3 対応機器側で *Bluetooth* 機器のリストが表示されたら、「YSP-2500 Yamaha」を選ぶ。

パスキー（PIN）の入力が必要な対応機器は、数字の「００００」を入力します。



対応機器側に ᛒ、または接続完了メッセージが表示されたら、ペアリングは完了です。



- ペアリングは、本機と対応機器の距離が 10m の範囲内で行ってください。
- 本機は最大 8 台の対応機器とペアリングできます。9 台目の対応機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い機器のペアリング情報が削除されます。
- ペアリング情報が削除された場合には、再度ペアリングを行う必要があります。
- 別の *Bluetooth* 対応機器が接続されている場合は、接続中の機器をいったん切断してから、ペアリングを行ってください。
- ペアリングができない場合は、「困ったときは」の「**Bluetooth**」（65 ページ）をご覧ください。

本機で *Bluetooth* 機器を再生する

1 電源オンの状態でリモコンのᛒキーを押す。

入力が *Bluetooth* になります。

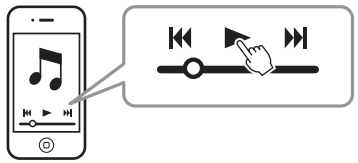


2 対応機器側の *Bluetooth* 機能をオンにする。

本機に *Bluetooth* が正常に接続されると、本機の前面ディスプレイに以下のように表示されます。



3 対応機器側で曲を再生する。



- *Bluetooth* 接続は、本機から 10m の範囲以内で操作してください。
- 必要に応じて、対応機器側の *Bluetooth* 接続リストから「YSP-2500 Yamaha」を再度選んでください。お使いの機器によっては、音声の出力先として本機を設定する必要があります。
- 必要に応じて、対応機器側の音量を調整してください。
- 別の *Bluetooth* 対応機器が接続されている場合は、接続中の機器をいったん切断してから接続してください。
- 前面ディスプレイには「BLUETOOTH」または接続された対応機器の名前を表示します（英数字以外は「_」を表示します）。

Bluetooth 接続を切断する

Bluetooth 接続中に以下のいずれかの操作を行うと、*Bluetooth* 接続が切断されます。

切断されると本機の前面ディスプレイに「Disconnect」と表示されます。

- **対応機器側で *Bluetooth* 機能をオフにする。**
- **リモコンのᛒキーを 3 秒以上押す。**
- **本機の電源をオフにする。**

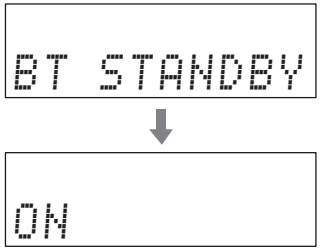


Bluetooth スタンバイモードを利用する

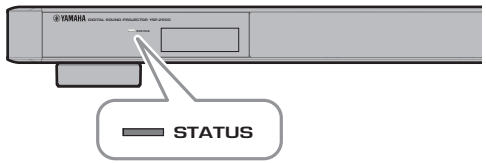
Bluetooth スタンバイモードを使うと、対応機器側の *Bluetooth* 操作に連動して自動的に本機の電源をオン / オフを切り替えることができます。

1 電源オンの状態でリモコンの BLUETOOTH スタンバイキーを 3 秒以上押す。

Bluetooth スタンバイモードが有効に設定され、本機の前面ディスプレイに以下のように表示されます。



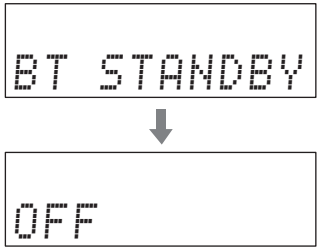
Bluetooth スタンバイモードを有効に設定すると、本機の電源をオフにしたときに、STATUS インジケーターが赤色で点灯します（***Bluetooth* スタンバイ状態**）。



点灯（赤）

Bluetooth スタンバイモードを無効にする

電源オンの状態でリモコンの BLUETOOTH スタンバイキーを 3 秒以上押します。



Bluetooth スタンバイモードが有効のとき、対応機器側からの電源連動は以下のように機能します。

電源オン連動

本機の電源がオフのときに、対応機器側で本機に *Bluetooth* 接続すると、本機の電源がオンになり、入力が *Bluetooth* に切り替わります。

電源オフ連動

本機の電源がオンのときに、対応機器側で本機の *Bluetooth* 接続を切断すると、本機の電源もオフになります。

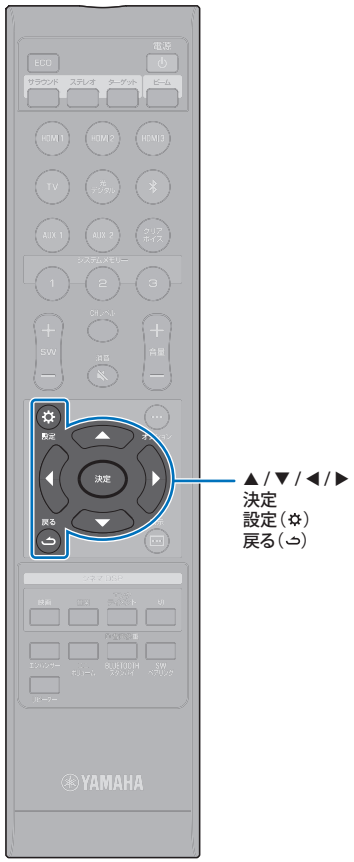
（入力が *Bluetooth* のときのみ）

アプリで便利に使いこなす

専用の無料アプリケーション「HOME THEATER CONTROLLER」を *Bluetooth* 対応のスマートフォンなどにダウンロードすると、端末機器から本機をより便利に操作することができます。

（設定項目：基本操作、音場プログラム、音質設定など）

「HOME THEATER CONTROLLER」の詳細については、弊社ウェブサイトの製品情報をご確認ください。



設定する

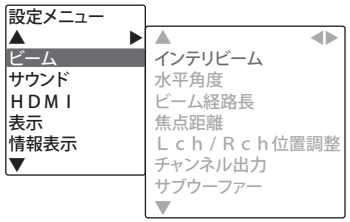
設定メニュー

設定メニューには、良好なサラウンド効果を得るための音声ビームの調整、チャンネルレベルなどの音の調節、HDMI の設定など、本機を使いこなすためのいろいろな設定があります。

設定メニューはテレビ画面を見ながら設定します（前面ディスプレイには表示されません）。テレビにメニューを表示させる方法については、「メニュー画面をテレビに表示する」（25 ページ）をご覧ください。

操作手順

1 設定（✲）キーを押す。

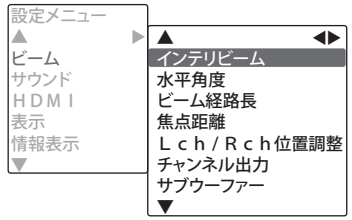


!

- 設定（✲）キーを長押しすると、言語選択の画面になります（55 ページ）。

2 ▲/▼ キーを押してメニューを選び、▶ キーまたは決定キーを押す。

設定したいメニューが表示されるまで、この手順を繰り返してください。



◀ キーまたは戻る（⤺）キーを押すと、ひとつ前のメニュー表示に戻ります。

3 ▲/▼ キーを押して、各メニューを設定する。

4 設定（✲）キーを押して、設定メニューを終了する。

設定メニューリスト

メニュー		項目	内容	ページ
ビーム	インテリビーム	ビーム調整＋音質調整	音声ビームと音質を自動的に設定します。	29
		ビーム調整	音声ビームを自動的に設定します。	29
		音質調整	音質を自動的に設定します。	29
	水平角度	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右	音声ビームの水平方向の角度を調節します。	47
	ビーム経路長	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右	音声ビームの経路距離を調節します。	47
	焦点距離	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右	音声ビームの焦点距離を調節します。	48
	Lch / Rch 位置調整	調整、左、右	左右の音のバランスを調節します。	49
	チャンネル出力		サラウンド音声のチャンネル出力を設定します。	49
	サブウーファー	無線機能	サブウーファーを有線 / 無線のどちらで接続するかを設定します。	50
		距離	サブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。	50
サウンド	チャンネルレベル	フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー	各チャンネルの音量を調節します。	50
	アダプティブ DRC		本機の音量に連動してダイナミックレンジを調節するかどうかを設定します。	51
	ダイナミックレンジ		ダイナミックレンジを設定します。	51
	マトリックスデコーダー		サラウンドデコーダーを設定します。	52
	Dolby PL IIx パラメーター	センターの広がり、パノラマ、ディメンジョン	ドルビープロロジック IIx ミュージックのパラメーターを設定します。	53
HDMI	HDMI コントロール		HDMI コントロール機能のオン / オフを切り替えます。	53
	HDMI 音声出力		HDMI 入力した音声を、本機またはテレビのどちらで再生するかを設定します。	53
	TV インプット		TV 入力の端子を TV（光デジタル）、AUX1（アナログ）、AUX2（同軸デジタル）から選びます。	54
表示	ディマー		前面ディスプレイの明るさを調節します。	54
	メニュー言語		メニュー画面の表示言語を設定します。	55
	距離単位		メニューなどに表示される長さや距離の単位を設定します。	55
情報表示	音声		入力している音声信号の情報を表示します。	56
	映像		入力している映像信号の情報を表示します。	56
	システム		本機のファームウェアのバージョンを表示します。	56

ビームの設定

インテリビームの「自動設定」（27 ページ）により、「水平角度」、「ビーム経路長」、「焦点距離」（「センター」を除く）および「Lch / Rch 位置調整」は適切な値に設定されています。設定を手動で微調整することもできます。

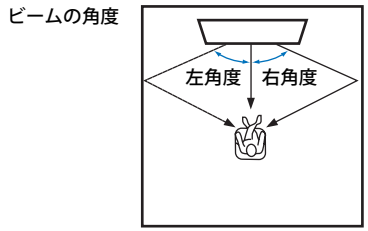
また、「ビーム」の設定では、サラウンド音声のチャンネル出力を変更できます。

水平角度

設定メニュー → ビーム → 水平角度

テスト音を聴きながら、音声ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。

左方向に調節すると音声出力は左方向へ移動し、右方向に調節すると右方向へ移動します。

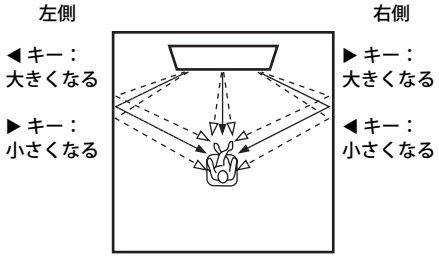


設定項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右

調整範囲

左 90°～右 90°



- 「サラウンドの音声出力を切り替える」（36 ページ）の設定により、設定できないチャンネルはグレーの文字で表示され、選べません。

ビーム経路長

設定メニュー → ビーム → ビーム経路長

音声のビームが出力されてから壁に反射して視聴位置に到達するまでの距離をチャンネルごとに設定します。音の遅延量が補正され、各チャンネルの音が同じタイミングで視聴位置に届くようになります。

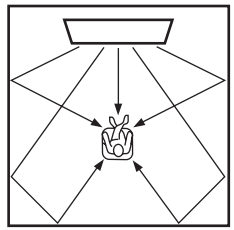
設定項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右

調整範囲

0.3m ～ 24.0m

右図では、矢印の長さがビームの経路長を表しています。



- 「ビーム経路長」は「水平角度」を調節した場合にのみ設定してください。

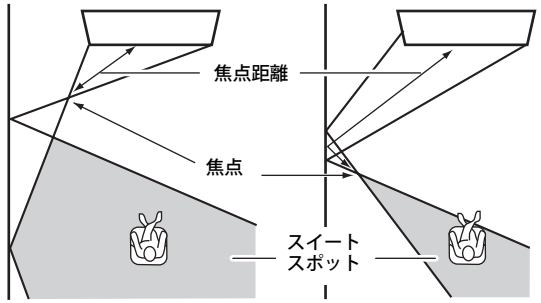
- 「サラウンドの音声出力を切り替える」（36 ページ）の設定により、設定できないチャンネルはグレーの文字で表示され、選べません。

焦点距離

設定メニュー → ビーム → 焦点距離

音がよく聞こえる範囲（スイートスポット）の広さを調節します。

下図のように音が一旦焦点を結び、その地点からまた広がるよう設定されています。
数値を小さく（－（マイナス）方向に）設定するほどスイートスポットは広くなり、
数値を大きく（＋（プラス）方向に）設定するほどスイートスポットは狭くなります。



設定項目
フロント左、フロント右、サラウンド左、サラウンド右

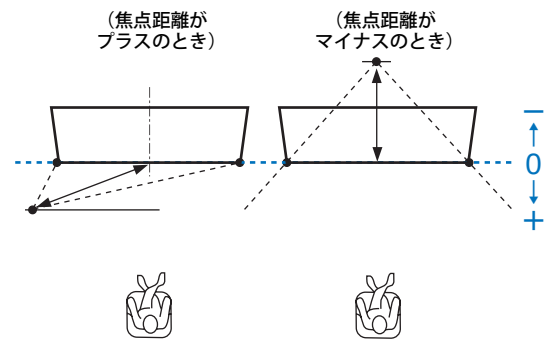
調整範囲
－ 1.0m ～＋ 13.0m

設定項目
センター

調整範囲
－ 1.0m ～－ 0.5m（初期設定）～＋ 13.0m

センターチャンネルについては、初期設定（－ 0.5m）での使用をおすすめします。

例　フロント左チャンネル　センターチャンネル



- 「サラウンドの音声出力を切り替える」（36 ページ）の設定により、設定できないチャンネルはグレーの文字で表示され、選べません。
- 「自動設定」（27 ページ）では、スイートスポットが本機の幅より少し広くなるよう自動的に調節されます。

Lch / Rch 位置調整

設定メニュー → ビーム → Lch / Rch 位置調整

左右の音が不自然に聞こえたら、まず各チャンネルの音量を調節します（39、50 ページ）。

調節しても、左右で音の聞こえてくる方向が不自然な場合は、左右チャンネルの位置調整をします。

フロント左 / 右チャンネルの音声が聞こえてくる方向が、センターに近い位置になるように調節します。

「サラウンドの音声出力を切り替える」（36 ページ）を「5BEAM+2」または「5BEAM」、「3BEAM」に設定しているときに調節できます。

❑ 調整

選択項目

オフ（初期設定）	調節しません。
オン	「左」、「右」を選択し、音の方向を調節します。

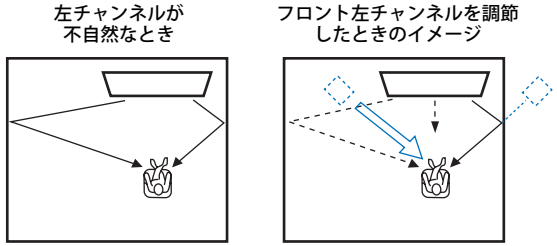
❑ 左

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

「調整」をオンにすると選択できます。

調整範囲

0%（初期設定）～ 95%



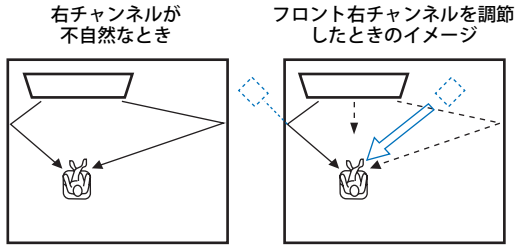
❑ 右

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

「調整」をオンにすると選択できます。

調整範囲

0%（初期設定）～ 95%



チャンネル出力

設定メニュー → ビーム → チャンネル出力

音声ビームの出力チャンネル（5.1ch、7.1ch、自動）を設定します。

選択項目

5.1ch	5.1ch で出力します。
7.1ch	7.1ch で出力します。
自動（初期設定）	入力信号にしたがって以下のように適切なチャンネル数で出力します。 – 入力信号が 2ch / 5.1ch のとき→ 5.1ch 出力 – 入力信号が 6.1ch / 7.1ch のとき→ 7.1ch 出力

• 「チャンネル出力」の設定により、音声ビーム出力方法の種類が異なります（36 ページ）。

サブウーファー

設定メニュー ➜ ビーム ➜ サブウーファー

サブウーファーの無線機能を使うかどうか、およびサブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。

❑ 無線機能

サブウーファーの無線機能のオン / オフを切り替えます。

選択項目

オフ	センターユニットとサブウーファーを RCA モノラルケーブルとシステム接続ケーブルで接続するときに選びます。
オン（初期設定）	センターユニットとサブウーファーを無線接続するときに選びます。

❑ 距離

サブウーファーから視聴位置までの距離を設定します。

調整範囲

0.3m ～ 2.5m（初期設定）～ 15.0m

サウンドの設定

チャンネルレベル

設定メニュー ➜ サウンド ➜ チャンネルレベル

チャンネルごとに出力されるテスト音を聴きながら、各チャンネルの音がバランス良く聞こえるように、チャンネルごとの音量を調節します。

設定項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

調整範囲

－ 20 ～＋ 20

- ビームキーで音声ビームの出力を「マイサラウンド」に設定した場合は、以下の項目を設定することができます。
  - センター
  - サラウンド左右
  - サブウーファー

アダプティブ DRC

設定メニュー → サウンド → アダプティブ DRC

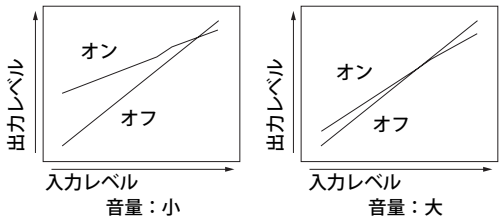
本機の音量とダイナミックレンジを連動して調節します。「オン」に設定すると、ダイナミックレンジは次のように調節されるので、夜間などに小音量で聴く際にも聴きやすくなります。

音量を小さくしたとき：

ダイナミックレンジが狭くなります。大きな音は音量を小さめに、聞き取りにくい小さな音は大きめに再生します。

音量を大きくしたとき：

ダイナミックレンジが広くなります。小さな音から大きな音まで、音源の持つ音量のまま再生します。



選択項目

オフ	ダイナミックレンジを自動調節しません。
オン（初期設定）	ダイナミックレンジを自動調節します。

- 「オン」に設定すると、「ダイナミックレンジ」が自動的に「最大」に設定されます。
- ユニボリュームをオンにすると、本設定は無効になります。

ダイナミックレンジ

設定メニュー → サウンド → ダイナミックレンジ

ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を設定します。

選択項目

最小 / 自動	（最小）夜間に小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。 （自動）入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。
標準	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
最大（初期設定）	入力された信号を補正せず、そのまま再生します。

- 「最大」以外に設定すると、「アダプティブ DRC」が自動的に「オフ」に設定されます。

マトリックスデコーダー

設定メニュー → サウンド → マトリックスデコーダー

サラウンドデコーダーを設定します。

2 チャンネルや 5.1 チャンネルの音声をサラウンドモードで再生する場合、本機のサラウンドデコーダーを使うと最大 7.1 チャンネルで再生できます。サラウンドデコーダーはそれぞれ特長があるため、使用するデコーダーを切り替えることによってサラウンド効果を調整することができます。

サラウンドデコーダーを使って再生するときは、シネマ DSP 切キーを押して「DSP Off」にしてください。

選択項目

PLII Movie*（初期設定）	ドルビープロロジック II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
PLII Music*	ドルビープロロジック II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。
PLII Game*	ドルビープロロジック II デコーダーです。ゲーム鑑賞に適しています。
Neo:6Cinema	映画鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダーです。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダーです。

* 音声ビームのチャンネル出力の設定（49 ページ）により、7.1ch で出力されるときは PLIIx（ドルビープロロジック IIx）デコーダーになります。

- **ステレオ再生（38 ページ）やマイサラウンド機能を使用している場合（37、39 ページ）、またはターゲット再生のとき（38 ページ）は無効です。**
- **ドルビープロロジック IIx Music のパラメーター（センターの広がり、パノラマ、ディメンジョン）を設定メニューで変更できます（53 ページ）。**

❑ 5.1 チャンネルの音源を再生するときのサラウンドデコーダーについて

「チャンネル出力」（49 ページ）を「7.1ch」に設定した場合、5.1 チャンネルの音源を最大 7.1 チャンネルで再生できます。入力信号に応じて、以下のデコーダーが自動的に選択されます。

入力信号（5.1ch）	デコーダー
PCM、AAC、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルサラウンド EX、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス	Dolby PLIIx Movie Dolby PLIIx Music
DTS、DTS-ES matrix、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューション、DTS Express	DTS-ES matrix
DTS-ES discrete	DTS-ES discrete

Dolby PL IIx パラメーター

設定メニュー → サウンド → Dolby PLIIx パラメーター

サラウンドデコーダー「ドルビープロロジック IIx ミュージック」のパラメーターを調節できます。

- 設定メニューの「マトリックスデコーダー」（52 ページ）が「PLIIx Music」に設定されているときのみ設定できます。

❑ センターの広がり

値を大きくするとセンターチャンネルの音声が左右に広がり、小さくすると中央に近づきます。

調整範囲
0 ～ 3（初期設定）～ 7

❑ パノラマ

「オン」に設定すると、フロント左右チャンネルの音声が左右に回り込み、サラウンドチャンネルの音声とつながるような広がりが得られます。

選択項目
オフ（初期設定）、オン

❑ ディメンジョン

フロントとサラウンドチャンネルのレベル差を調節します。値を大きくするとフロントの音声が強くなり、小さくするとサラウンドチャンネルの音声が強くなります。

調整範囲
－ 3 ～ 0（初期設定）～＋ 3

HDMI の設定

HDMI 信号や HDMI コントロール機能に関する設定をします。

HDMI コントロール

設定メニュー → HDMI → HDMI コントロール

HDMI コントロール機能（31 ページ）のオン / オフを切り替えます。

選択項目

オフ	コントロール機能を無効にします。本機の待機時消費電力を低減できます。
オン（初期設定）	コントロール機能を有効にします。

HDMI 音声出力

この設定は、「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

設定メニュー → HDMI → HDMI 音声出力

HDMI 入力音声信号を再生する機器を設定します。

選択項目

AMP（初期設定）	入力した音声信号を本機で再生します。
TV	HDMI 出力（ARC）端子に接続したテレビで音声を再生します。

- 「HDMI コントロール」が「オン」の場合は、接続したテレビの設定で音声を出力する機器を選択してください。
- 本機の HDMI 入力端子に入力した HDMI 映像信号は、常に本機の HDMI 出力（ARC）端子へ出力されます。

TV インプット

設定メニュー ➜ HDMI ➜ TV インプット

テレビに ARC 機能がない場合（または ARC 機能をオフにしている場合）や、本機の HDMI コントロール機能をオフにしている場合、テレビの音声は TV 端子（光デジタル）に割り当てられています（初期設定）。この割り当てを AUX2（同軸デジタル）端子または AUX1（アナログ）端子と入れ替えることができます。

選択項目
オプティカル［TV］（初期設定）、アナログ［AUX1］、コアキシャル［AUX2］

- 「コアキシャル［AUX2］」に割り当てを変更した場合：
  TV キーを押すと AUX2（同軸デジタル）端子に接続した機器（テレビ）の音声を入力します。AUX2 キーを押すと TV 端子（光デジタル）に接続した機器の音声を入力します。
- 「アナログ［AUX1］」に割り当てを変更した場合：
  TV キーを押すと AUX1（アナログ）端子に接続した機器（テレビ）の音声を入力します。AUX1 キーを押すと TV 端子（光デジタル）に接続した機器の音声を入力します。

表示の設定

ディマー

設定メニュー ➜ 表示 ➜ ディマー

前面ディスプレイの明るさを調節します。数値が小さくなるほど暗くなります。

選択項目
ー 5（消灯）～ー 1、0（最も明るい）（初期設定）

- 「ー 5」にすると、操作したときのみ最小の明るさで表示します。STATUS インジケーターの明るさは最小になります。
- エコ機能がオンのときは設定することができません（40 ページ）。

メニュー言語

設定メニュー → 表示 → メニュー言語

テレビに表示されるメニュー画面の表示言語を設定します。

選択項目

日本語（初期設定）	日本語で表示します。
ENGLISH	英語で表示します。
DEUTSCH	ドイツ語で表示します。
FRANÇAS	フランス語で表示します。
ESPAÑOL	スペイン語で表示します。
ITALIANO	イタリア語で表示します。
NEDERLAND	オランダ語で表示します。
РУССКИЙ	ロシア語で表示します。
SVENSKA	スウェーデン語で表示します。
TÜRK	トルコ語で表示します。
中文	中国語で表示します。

- 設定（☼）キーを長押しすると、「メニュー言語」を直接表示することができます。
- HDMI コントロール対応のテレビをご使用の場合、設定が自動的に変更されることがあります。
- 表示言語を設定できるのは、テレビ画面に表示されるメニューだけです。前面ディスプレイは常に英数字で表示します。

距離単位

設定メニュー → 表示 → 距離単位

メニューなどに表示される長さや距離の単位を設定します。

選択項目

メートル（初期設定）、フィート

- メートルとフィートを切り替えたときは設定をやり直してください。数値は変更した単位に換算されません。

情報表示

本機に入力している音声・映像信号の情報を表示します。

音声

設定メニュー → 情報表示 → 音声

現在入力している音声信号について、以下の情報を表示します。

フォーマット	デジタル音声のフォーマット
チャンネル数	入力信号に含まれているチャンネル数（フロント / サラウンド / LFE（低域効果音））表示例：「3 / 2 / 0.1」→ 入力信号にフロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE あり フロント、サラウンド、LFE 以外のチャンネルが含まれていると、「5.1ch」のように合計のチャンネル数で表示されることがあります。
サンプリング周波数	デジタル入力信号のサンプリング周波数
ビットレート	入力信号の 1 秒あたりのビットレート

- 入力信号によってはビットレートが表示されない場合があります。

映像

設定メニュー → 情報表示 → 映像

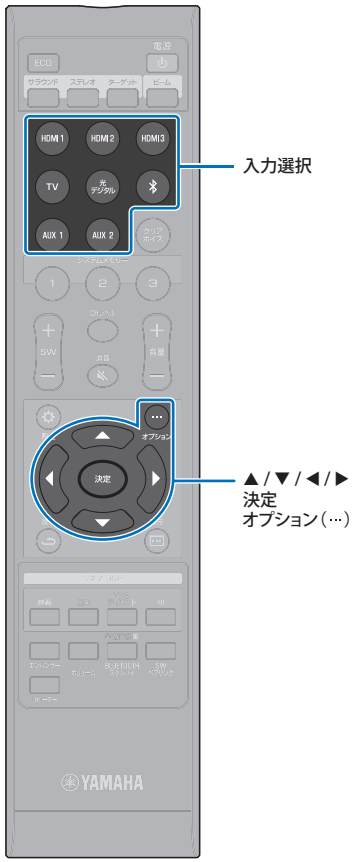
現在入力している映像信号について、以下の情報を表示します。

種類	HDMI または DVI
解像度	映像信号の解像度

システム

設定メニュー → 情報表示 → システム

本機のファームウェアのバージョンを表示します。



入力ごとの設定（オプションメニュー）

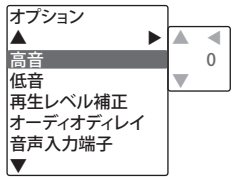
再生中の入力に関連する機能を設定します。

オプションメニューはテレビ画面または前面ディスプレイを見ながら設定します。テレビにメニューを表示させる方法については、「メニュー画面をテレビに表示する」（25 ページ）をご覧ください。

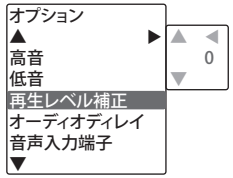
操作手順

1 設定したい入力選択キーを押して、入力を選ぶ。

2 オプション（…）キーを押す。



3 ▲/▼ キーでメニューを選び、▶ キーまたは決定キーを押す。



4 ▲/▼ キーを押して、設定値を変更する。



5 オプション（…）キーを押して、オプションメニューを終了する。

- 設定できるメニューは入力によって異なります。

オプションメニューリスト

メニュー	内容	入力
高音 [TREBLE]	高音域の出力レベルを調節します。	HDMI1 ～ 3、TV、光デジタル、AUX1 ～ 2、*Bluetooth*
低音 [BASS]	低音域の出力レベルを調節します。	HDMI1 ～ 3、TV、光デジタル、AUX1 ～ 2、*Bluetooth*
再生レベル補正 [VOLUME TRIM]	入力ごとに異なる音量のばらつきを調節します。	HDMI1 ～ 3、TV、光デジタル、AUX1 ～ 2、*Bluetooth*
オーディオディレイ [AUDIO DELAY]	映像と音声のズレを補正します。	HDMI1 ～ 3、TV、光デジタル、AUX1 ～ 2
音声入力端子 [AUDIO ASSIGN]	HDMI 入力時、別の入力からの音声を割り当てます。	HDMI1 ～ 3

- **[ ] は前面ディスプレイの表示です。**

音色を調整する（高音、低音）

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

調整範囲
－ 12 ～ 0（初期設定）～＋ 12

各端子の入力レベルを設定する（再生レベル補正）

入力ごとに異なる音量のばらつきを調節します。

調整範囲
－ 12 ～ 0（初期設定）～＋ 12

映像と音声のタイミングを調整する（オーディオディレイ）

接続しているテレビでデジタル処理された映像が、音声よりも遅れて表示されることがあります。このタイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

調整範囲
HDMI1 ～ 3：自動［AUTO］（初期設定）、0ms ～ 500ms、5ms 単位
TV、光デジタル、AUX1 ～ 2：0ms（初期設定）～ 500ms、5ms 単位

「AUTO」にすると、出力タイミングが自動的に調節されます。HDMI で接続されたテレビがオーディオディレイの自動補正機能に対応しているときのみ有効です。

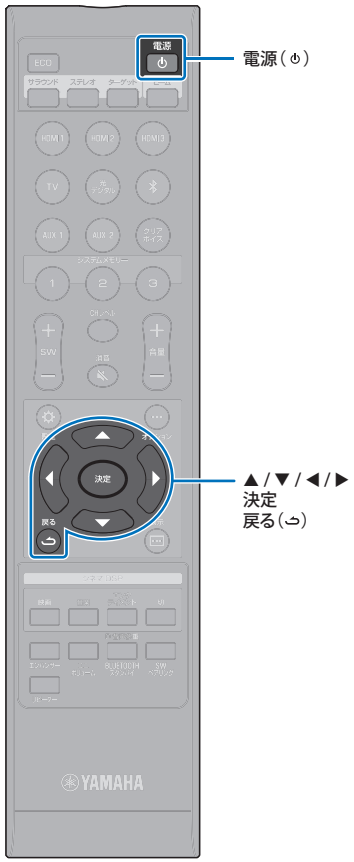
HDMI の音声を他の入力端子に割り当てる（音声入力端子）

HDMI1 ～ 3 を入力するとき、HDMI からの音声ではなく光デジタル端子または AUX2（同軸デジタル）端子からの音声を割り当てることができます。

ブルーレイディスクの映像を見ながら、他の再生機器の音声を楽しむ場合などにご利用ください。

選択項目
HDMI（初期設定）、光デジタル［OPTICAL］、AUX2

- **AUX2 の入力の初期設定は AUX2（同軸デジタル）端子ですが、設定メニューの「TV インプット」（54 ページ）の設定により、以下のように音声が割り当てられます。**
  - **–「TV インプット」で「オプティカル［TV］」（初期設定）を割り当てているとき：「AUX2」に設定すると、AUX2（同軸デジタル）端子の音声が割り当てられます。**
  - **–「TV インプット」で「コアキシャル［AUX2］」を割り当てているとき：「AUX2」に設定すると、TV（光デジタル）端子の音声が割り当てられます。**



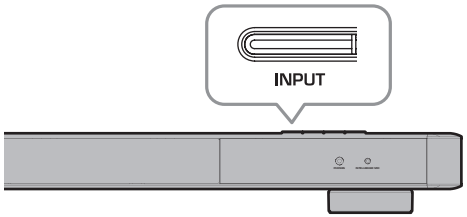
拡張メニュー

「拡張メニュー」は、最大音量の制限や、センターユニットの INPUT キーを無効にするなど、本機の機能をより詳細に設定します。

操作手順

1 電源（⏻）キーを押して、本機の電源をオフにする。

2 センターユニットの INPUT キーを押しながら、リモコンの電源（⏻）キーを押して電源をオンにする。



前面ディスプレイに「ADVANCED」と表示されます。



- 拡張メニューはテレビには表示されません。

3 センターユニットの INPUT キーをはなす。

4 ▲/▼ キーで、設定したいメニューを前面ディスプレイに表示させ、▶ キーまたは決定キーを押す。

- ひとつ前の表示に戻るには、◀ または戻る（⮌）キーを押してください。

5 ▲/▼ キーを押して、設定を変更する。

6 電源（⏻）キーを押して、電源をオフにする。

再度電源（⏻）キーを押して電源を入れると、設定されます。

拡張メニューリスト

設定項目	選択項目 / 調整範囲	内容
TURN ON VOLUME	OFF（設定しない）（初期設定）、1 ～ 70	本機の電源をオンにしたときの音量を、常に指定した値になるように設定します。 OFF の場合は、電源をオフにしたときの音量になります。
MAX VOLUME	1 ～ 99、MAX（最大）（初期設定）	本機の音量を、指定した値より大きくできないように設定します。
INPUT LOCK	ON（INPUT キー操作無効） OFF（INPUT キー操作有効）（初期設定）	センターユニットの INPUT キーを押しても、入力が変わらないようにします。
PANEL LOCK	ON（センターユニットのキー操作無効） OFF（センターユニットのキー操作有効）（初期設定）	拡張メニュー以外の操作をセンターユニットのキーでできないようにします。
IR INPUT POWER	ON（起動する） OFF（起動しない）（初期設定）	本機の電源がオフのとき、リモコンの入力選択キーを押すと本機の電源がオンになるように設定します。
AC ON STANDBY	ON（電源オフの状態） OFF（電源遮断前の状態）（初期設定）	本機への電源供給が一時的に遮断（コンセントを抜いた、または停電など）されたあと、電源供給が復帰したときに本機を電源オフの状態にします。
MEMORY PROTECT	ON（保護する） OFF（保護しない）（初期設定）	システムメモリーに保存した設定の内容を変更できないようにします。
YRB FL	YES（サウンドリフレクションボードを使用する） NO（サウンドリフレクションボードを使用しない）（初期設定）	サウンドリフレクションボード YRB-100 をフロント左に使用するときに設定します。 YRB-100 については、67 ページをご覧ください。
YRB FR	YES（サウンドリフレクションボードを使用する） NO（サウンドリフレクションボードを使用しない）（初期設定）	サウンドリフレクションボード YRB-100 をフロント右に使用するときに設定します。 YRB-100 については、67 ページをご覧ください。
YRB SL	YES（サウンドリフレクションボードを使用する） NO（サウンドリフレクションボードを使用しない）（初期設定）	サウンドリフレクションボード YRB-100 をサラウンド左に使用するときに設定します。 YRB-100 については、67 ページをご覧ください。
YRB SR	YES（サウンドリフレクションボードを使用する） NO（サウンドリフレクションボードを使用しない）（初期設定）	サウンドリフレクションボード YRB-100 をサラウンド右に使用するときに設定します。 YRB-100 については、67 ページをご覧ください。
AUTO POWER STANDBY	ON（自動的にオフにする） OFF（自動的にオフにしない）（初期設定）	ON に設定すると、以下のいずれかの場合に電源が自動的にオフになります。 • 音声入力があり、操作がない状態で 8 時間経過 • *Bluetooth* が再生機器として選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過 • HDMI1-3 のいずれかが再生機器として選択されているが、選択した入力端子に再生機器を接続していない状態で 20 分経過
FW UPDATE	02.00.04（ファームウェアのバージョン表示例） START OK?（ファームウェアのアップデート）	本機のファームウェアのバージョン確認と、ファームウェアのアップデートをします。
INITIALIZE	OK（初期化する） CANCEL（初期化しない）（初期設定）	各種設定をすべて工場出荷状態に戻します。本機の操作ができなくなったときなどに、初期化することで問題が解決する場合があります。

• 初期化すると、インテリビームの測定結果やシステムメモリーに保存した設定も初期化されます。再度インテリビームで自動設定してください。

困ったときは

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に作動しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
電源（⏻）キーを押しても電源が入らない / すぐに電源が切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	23
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源が切れる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待ち（約 1 時間程度）、本機の周囲に十分なスペースがあること、本機を布などで覆っていないことを確認して電源を入れなおしてください。	11
	自動スタンバイがオンに設定されていて、以下のいずれかの条件の場合、自動的に電源が切れます。 – 音声入力があり、操作がない状態で 8 時間経過 – *Bluetooth* が再生機器として選択され、音声入力および操作がない状態で 20 分経過 – HDMI1-3 のいずれかが再生機器として選択されているが、選択した入力端子に再生機器を接続していない状態で 20 分経過	電源を入れて再生しなおしてください。自動スタンバイ機能を使わない場合は、「Auto Power Standby」を「OFF」にしてください。	59
	Bluetooth スタンバイモードが有効で、*Bluetooth* 対応機器との接続が切断された。	対応機器側で再度本機に接続してください。または電源を入れて、*Bluetooth* スタンバイモードを無効に設定してください。	44
前面ディスプレイが点灯しない	エコ機能がオンになっている。	ECO キーを押して、エコ機能をオフにしてください。	40

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	21
	再生する機器が正しく選ばれていない。	入力選択キーで、再生する機器を正しく選んでください。	33
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	33
	消音されている。	消音（🔇）キーまたは音量（＋ / －）キーを押して消音を解除してください。	33
	本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号の音源を再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	74
	「HDMI 音声出力」を「TV」に設定している。	「AMP」に設定してください。	53
	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	ARC（オーディオリターンチャンネル）対応のテレビと本機を HDMI ケーブルのみで接続する場合は、「HDMI コントロール」を「オン」に設定してください。	53
		「HDMI コントロール」を「オフ」にしたまま使うには、本機の TV 端子（光）とテレビの音声出力端子を光ファイバーケーブルで接続してください。	20
	HDMI コントロール機能を使用しているテレビの音声出力先が、テレビの内蔵スピーカーになっている。	テレビの HDMI に関する設定で、音声出力先をテレビの内蔵スピーカー以外に切り替えてください。	—
特定のチャンネル音声が出ない / はっきり聞こえない	該当チャンネルの音量が絞られている。	該当チャンネルの音量を調節してください。	39、50
	音声ビームが正しく設定されていない。	音声ビームを調節してください。	26
	ステレオ再生している。	サラウンド再生してください。	34
	音声出力方法により、出力されないチャンネルがあります。	音声出力方法を変更してください。	36
十分なサラウンド効果が得られない	本機と再生機器やテレビをデジタル接続している場合に、再生機器やテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	再生機器やテレビ側の設定を確認してください。	—
	再生機器側で、常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている	再生機器側の音声出力設定を変更してください。	—
	部屋が特殊な形状をしている、または本機の設置場所や視聴位置が部屋の左右の壁の中央からずれている。	本機の設置場所や視聴位置を変更してください。	12
	音声ビーム経路上に壁がない。	音声ビーム経路上にサウンドリフレクションボードを設置してください。	67
	MY SUR.（マイサラウンド）を選択し、本体中央正面以外の場所で視聴している。	本体中央正面で視聴してください。	37

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーから音声が出ない、または途切れる	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。	23
	サブウーファーの音量が小さい。	SW（+）キーを押して音量を上げてください。	33
	「サブウーファー」の「無線機能」を「オフ」にして、無線接続しようとしている。	「オン」に設定してください。	50
	有線接続しているのに、「サブウーファー」の「無線機能」が「オン」になっている。	「オフ」に設定してください。	50
有線接続しているサブウーファーから音声が出ない	システム接続ケーブルおよび RCA モノラルケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	24
サブウーファーの接続インジケーターがオレンジ色で点灯している	サブウーファーの保護回路が働いた。	電源コードを抜き、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。	—
センターユニットの TX インジケーターが点滅している / サブウーファーの接続インジケーターが赤点灯、または緑点滅が続いている	無線の通信状態が悪く、センターユニットとサブウーファーが接続されない。	サブウーファーをセンターユニットに近づけて下さい。 近づけても改善しない場合は、サブウーファーを動かして、サブウーファーの接続インジケーターが安定して緑色に点灯する場所に設置してください。	—
		センターユニットとサブウーファーの間が金属製の家具などで遮られている場合は、家具やサブウーファーの位置を変えてください。	—
		近くに電子レンジや無線 LAN 機器など、電磁波を発するものがある場合は、それらのものから離れたところに設置してください。	—
		有線でサブウーファーを接続してください。	24
センターユニットの TX インジケーターが点滅している / サブウーファーの接続インジケーターが赤点灯、または赤点滅が続いている	センターユニットとサブウーファーがペアリングされない。	センターユニットとサブウーファーをペアリングしてください。 ペアリングを実施してもセンターユニットの TX インジケーターが点灯しない場合は、故障の可能性があります。電源プラグをコンセントから抜き、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。	69
サブウーファーの音が途切れる（音が途切れるときに、センターユニットの TX インジケーターが点滅する）	無線の通信状態が悪く、センターユニットとサブウーファーの接続が途切れる。	サブウーファーをセンターユニットに近づけて下さい。 近づけても改善しない場合は、サブウーファーを動かして、センターユニットの TX インジケーターが点灯する場所に設置してください。	—
		センターユニットとサブウーファーの間が金属製の家具などで遮られている場合は、家具やサブウーファーの位置を変えてください。	—
		近くに電子レンジや無線 LAN 機器など、電磁波を発するものがある場合は、それらのものから離れたところに設置して下さい。	—
		有線でサブウーファーを接続してください。	24

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーの低音が小さい	サブウーファーの音量が小さい。	SW（+）キーを押して音量を上げてください。	33
	低音域が少ない音源を再生している。	低音域が多く含まれている音源を再生して確認してください。	—
	———	サブウーファーの設置場所や向きを変更してください。	11
	ターゲット再生している。	サラウンド再生やステレオ再生にしてください。	34、38
	付属のサブウーファー以外を接続している。	本機は付属のサブウーファー NS-WSW120 以外には対応していません。	—
テレビ画面に映像が表示されない	HDMI ケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	20、21
本機のメニュー画面が表示されない	テレビの入力切り替えが正しく設定されていない。	テレビの入力を本機にしてください。	25
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—
設定した内容が変わってしまう	「HDMI コントロール」が「オン」に設定されているとき、テレビの仕様によっては、チャンネルを変えるなどのテレビの操作で、音場プログラムなどの本機の設定が変更される。	「HDMI コントロール」を「オフ」に設定するか、本機のリモコンで再度設定してください。	53
HDMI コントロール機能が正常に動作しない	「HDMI コントロール」が「オフ」に設定されている。	「オン」に設定してください。	53
	テレビの HDMI コントロール機能が有効になっていない。	テレビ側の設定を確認してください。	—
	規格の制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
「AUDIO DELAY」を「AUTO」に設定しても効果が感じられない	テレビがオーディオディレイの自動補正機能に対応していない。	「AUDIO DELAY」の遅延時間を手動で設定してください。	58
キー操作時に「Disable」と表示される	操作したキーは現在の状態では機能しません。	———	—

Bluetooth

症状	原因	対策	参照ページ
本機と対応機器がペアリングできない	本機の入力が *Bluetooth* 以外になっている。	入力を *Bluetooth* にしてください。	33
	対応機器が A2DP に対応していない。	A2DP に対応した機器とペアリングしてください。	72
	Bluetooth アダプターなどの機器でパスキーが「0000」以外になっている。	パスキーが「 0000 」の機器をお使いください。	42
	本機と対応機器の距離が離れすぎている。	本機と対応機器の距離を 10m 以内にしてペアリングしてください。	43
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。	—
	別の *Bluetooth* 対応機器が既に接続されている。	接続中の機器をいったん切断してから、ペアリングしてください。	43
***Bluetooth* 接続ができない**	別の *Bluetooth* 対応機器が既に接続されている。	本機は複数の *Bluetooth* 対応機器とは接続できません。現在接続中の対応機器をいったん切断してから、接続し直してください。	43
	９台以上の対応機器とペアリングしたために、ペアリング情報が削除された。	再度ペアリングしてください。 本機は最大８台の対応機器とペアリングが可能ですが、９台目を登録すると、最も古いペアリング情報は削除されます。	42
音が出ない、または音が途切れる	対応機器との *Bluetooth* が切断された。	接続し直してください 。	43
	本機と対応機器の距離が離れすぎている。	対応機器を本機から 10m 以内に近づけてください。	43
	2.4 GHz 帯の電磁波を発するもの（電子レンジ、無線 LAN 機器など）がそばにある。	本機を電磁波を発するものから離して設置してください。	—
	対応機器の *Bluetooth* 接続がオフになっている。	対応機器の *Bluetooth* 機能をオンにしてください。	—
	対応機器が *Bluetooth* 信号を本機に送っていない。	対応機器の *Bluetooth* 機能が正しく設定されているか確認してください。	—
	対応機器側での再生操作をしていない。	対応機器側で再生してください。	—
	対応機器の音量が最小になっている。	対応機器の音量を上げてください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
リモコンで本機を操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光部から 6m 以内、角度 30° 以内の範囲で操作してください。	18
	受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて新品に交換してください。	18
テレビリモコンリピーター機能を使ってテレビを操作できない	テレビリモコンリピーター機能が無効になっている。	テレビリモコンリピーター機能を有効にしてください。	14
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。（赤外線リモコンでも対応していない場合があります。）	この場合はテレビリモコンリピーター機能を利用できません。テレビのリモコン受光部が隠れないようにセンターユニットを移動し、テレビリモコンでテレビを直接操作してください。	—
	センターユニットとテレビの距離が遠すぎる、または近すぎる。	センターユニットを移動して、テレビリモコンリピーターとテレビ（リモコン受光部）の距離を調節してください。 必要に応じて、センターユニットの高さを調節してください。	15
	センターユニットの電源コードが抜けている。	電源コードをコンセントに接続してください。	23
	センターユニットとテレビの間にコードなどの障害物がある。	障害物を取り除いてください。	—

メッセージリスト

メッセージ	内容	参照ページ
ViewScreen	テレビ画面に本機の設定画面を表示しています。テレビを見ながら設定してください。	45
Key Locked	本体の操作キーをロックしています。リモコンで操作してください。	59
Sleep XXmin	自動スタンバイ機能により、XX 分後に電源がオフになります。	59
Protected	システムメモリー 1-3 は保護されています。	59
Disable	キーの操作は無効です。	—

サラウンド感が得られないときは

本機は音声をビーム化し、壁面に反射させることでサラウンド音響を実現しています。
設置した部屋の状態によってはビームが視聴位置の方向に反射されず、音量のバランスや音の方向が不自然に聴こえることがあります。

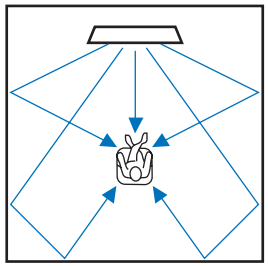


図 1：理想的な反射状態

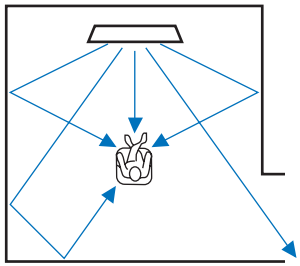


図 2：壁がなく、サラウンド右チャンネルの音声が反射されない状態

サラウンド右チャンネルの音が小さくなったり、理想的な位置より前方から音が聴こえたりします。

上記の図 2 のようにビームが視聴位置の方向に反射されない場合、別売の「サウンドリフレクションボード（YRB-100）」を設置することで、壁がない場所でもサラウンド感を向上させることができます。

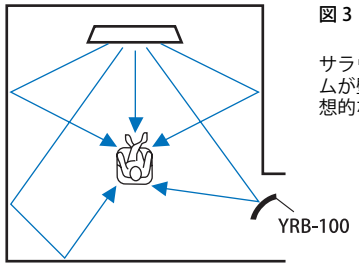


図 3：サウンドリフレクションボードを設置した状態

サラウンド右チャンネルのビームが壁面に正しく反射されて理想的な反射状態となります。

YRB-100 の設置と調整

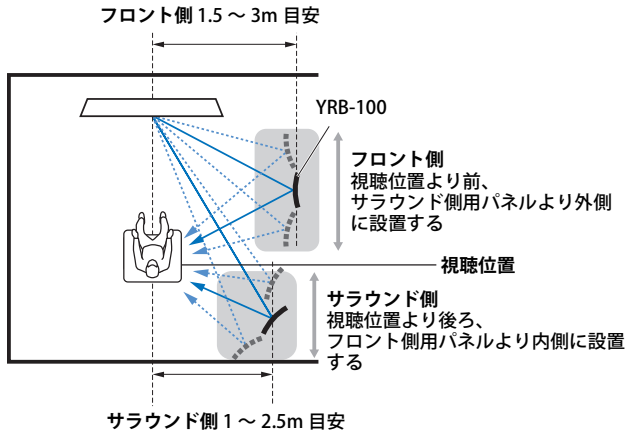
1 サウンドリフレクションボードの位置を決める。

図を参考にしてサウンドリフレクションボードを設置してください。

- サウンドリフレクションボードを移動するときは、必ずポールを持ってください。

- どの方向からの音が聴こえにくいかを正確に知るには、設定メニューの「チャンネルレベル」を使います（50 ページ）。

推奨する設置場所





2 拡張メニュー（59 ページ）でサウンドリフレクションボードを設定する。

設置するリフレクションボードの位置に応じて、YRB FL（フロント左）、YRB FR（フロント右）、YRB SL（サラウンド左）、および YRB SR（サラウンド右）を「YES」にします。

テレビ画面全体にカラーバーが表示されます。手順 4 でパネルの左右の方向を決めるとき、パネルにテレビ画面が写り込んでいるかを判別しやすくなります。

3 高さを決める。

本機やサウンドリフレクションボードの位置、および視聴位置に応じて、サウンドリフレクションボードのパネルを適切な高さに調節します。

詳しくは YRB-100 の取扱説明書をご覧ください。

4 左右の方向を決める

音声ビームが視聴位置に反射するようにパネルの方向を調節します。

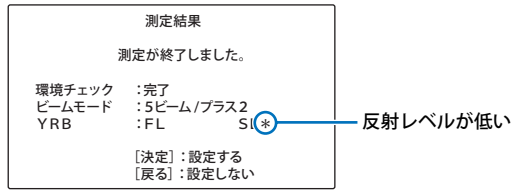
テレビをつけ部屋を少し暗くして視聴位置からパネルを見た場合に、パネルにテレビ画面（カラーバー表示）が写り込んでいるとき、パネルは適切な方向になっています。詳しくは YRB-100 の取扱説明書をご覧ください。

5 電源（⏻）キーを押して本機の電源を切り、もう一度押して電源を入れる。

6 本機にインテリビームマイクを接続し、音声ビームの自動設定（ビーム調整 + 音質調整）を行う（26 ページ）。

測定結果の画面の「YRB」に、サウンドリフレクションボードを設置したチャンネル（FL、FR、SL、および SR）が表示されているかを確認してください。

音声ビームの反射レベルが低いチャンネルには、「＊」が表示されます。



このような場合は、以下のように調節し直してください。

① サウンドリフレクションボードの設置状態を確認し、パネルの高さや左右の方向を調節する。

② 設定メニューの「チャンネルレベル」（50 ページ）を使って、テスト音が良好に反射するようになったか確認する。

正確に確認するには、音声ビームの自動設定を行って、チャンネル表示から「＊」が消えているか確認してください。

それでも「＊」が消えないときや、テスト音がサウンドリフレクションボードの方向から聴こえないときは、YRB-100 の取扱説明書に従って、音声ビームを手動で調節してください。

センターユニットとサブウーファーのペアリング

- 設定メニューの「無線機能」が「オン」になっていることを確認してください（50 ページ）。

ペアリングとは、センターユニットと接続するサブウーファーを結びつける操作です。
通常、本機はセンターユニットの電源を初めてオンにしたときに、センターユニットとサブウーファーを自動的にペアリングしますが、センターユニットの TX インジケーターが点灯しないなどの問題が発生した場合は、以下の手順で手動でペアリングを実施してください。

1 **センターユニットの電源をオンにする。**

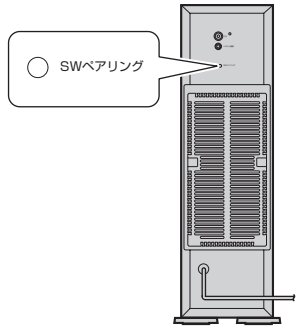
2 **リモコンの SW ペアリングキー（10 ページ）を 3 秒以上押す。**

センターユニットの TX インジケーターが高速で点滅します。

3 **30 秒以内にサブウーファーの SW ペアリングキーをピンなどの先の細いもので 3 秒以上押す。**

サブウーファーの接続インジケーターが高速で緑色に点滅します。

ペアリングが完了し、センターユニットとサブウーファーが接続されると、TX インジケーターが点灯し、接続インジケーターが緑色で点灯します。



- 30 秒たってもセンターユニットの TX インジケーターが点灯しない場合は、もう一度手順 2 から操作してください。それでもセンターユニットの TX インジケーターが点灯しない場合は、「故障かな？と思ったら」（63 ページ）をご覧ください。

付録

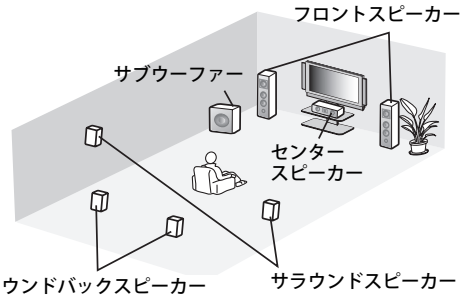
サラウンドの基礎知識

サラウンドとは？

映画館で体験する、音に包み込まれるような感覚。これは観客のまわりをたくさんのスピーカーで取り囲み、それぞれの方向から音を出すことによって作り出しています。このように、前方のスピーカーだけではなく、聴き手の側方や後方にもスピーカーを設置し、よりリアルな音の臨場感を再現する技術を「サラウンド」技術と呼びます。

音の方向や音質を正確に再現するためには、スピーカーそれぞれに別の音を出す必要があります。これらを「チャンネル」と呼びます。家庭用のサラウンドシステムでは、以下のような 7 つのスピーカーとサブウーファーにより、サラウンドを実現するシステム（7.1 チャンネルスピーカーシステム）が一般的です。

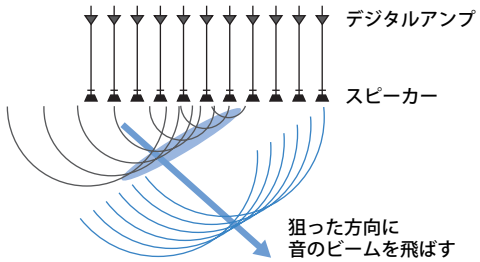
標準的な 7.1 チャンネルスピーカーシステム



上記のように、たくさんのスピーカーを設置することで音の臨場感を再現することができますが、家庭のリビングルームにたくさんのスピーカーを設置するのは大変です。そこで、本機は「デジタルサウンドプロジェクター」技術を使用し、スリムなセンターユニットとサブウーファーだけでリアルなサラウンドを実現しました。

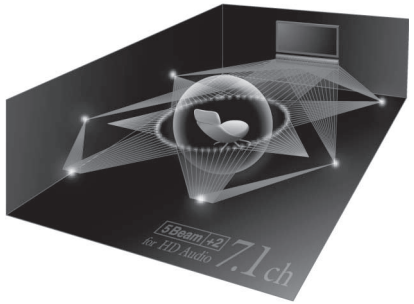
デジタルサウンドプロジェクターとは？

デジタルサウンドプロジェクターは、均等に配列された小口径のスピーカーを個別に制御し、適切に処理した音声信号を各スピーカーから出力して合成することにより、強い指向性を持った音（音声ビーム）を出力します。



強い指向性を持った音はかたい壁に当たると反射します。デジタルサウンドプロジェクターはフロント（左 / 右）、センター、サラウンド（左 / 右）の 5 チャンネル分の音声ビームを、壁面の反射を利用して聴き手にとって適切な方向から音が届くように出力することで、側面や背面にスピーカーを置かずにサラウンドを実現する技術です。また、フロントチャンネルとサラウンドチャンネルの信号を組み合わせることにより、さらに 2 チャンネルをつくり出して 7 チャンネルにすることで、よりチャンネル間のつながりの良いサラウンド感を演出することも可能です。

本機のサウンドイメージ



ヤマハの音声技術

本機には他にもヤマハの優れた音声技術を活かした機能を多数搭載しています。

ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット（MP3、AAC など）で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮音声をより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

シネマ DSP

ヤマハが所有する豊富な音場の実測データに基づく音場技術を応用し、音のスケールや奥行き、音量感を補正することで、ご家庭で映画館のような臨場感あふれる視聴体験を実現する技術です。

バーチャルサラウンドヘッドホン

ヘッドホンで音場を仮想的に再現する技術です。ヘッドホンでも自然で立体感あふれるサラウンド感をお楽しみいただけます。

用語 / 技術解説

サンプリング周波数と量子化ビット数
アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz / 24bit などのように表現されます。

- **サンプリング周波数**
  1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。
- **量子化ビット数**
  音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）
MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS / 地上波デジタル放送で採用されています。

Deep Color
HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10 / 12 / 16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

Dolby Digital（ドルビーデジタル）
ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

Dolby Digital EX（ドルビーデジタル EX）
Dolby Digital Surround EX 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。

Dolby Digital Plus（ドルビーデジタルプラス）
ドルビーラボラトリーズにより開発された、7.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

Dolby Pro Logic II（ドルビープロロジック II）
2 チャンネルで記録された音声信号を 5 チャンネル信号に変換する技術です。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオ音源用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby Pro Logic IIx（ドルビープロロジック IIx）
2 チャンネルで記録された音声だけでなく、マルチチャンネルで記録された音声信号も 7 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Movie モード、音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby TrueHD（ドルビー TrueHD）
スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz / 24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz / 24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS デジタルサラウンド
DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

DTS Express
DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio（DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ）
DTS 社により開発された高品質 96kHz / 24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

DTS-HD Master Audio（DTS-HD マスターオーディオ）
スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz / 24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz / 24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS Neo:6
2 チャンネルで記録された信号の音源を、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリート方式で記録された音声のようなチャンネル分離感を実現します。

HDMI
世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。詳しい情報については、"http://www.hdmi.org" を参照してください。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）
アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとして BD（ブルーレイディスク）などさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

x.v.Color
HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の 1 つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

主な仕様

YSP-CU2500

アンプ部

- 定格出力
  ツイーター (1kHz、1% THD、4Ω) 27.2W
- 実用最大出力
  ツイーター (1kHz、10% THD、4Ω) 32W

スピーカー部

- スピーカー形式 ..... 密閉型 / 防磁型
- ユニット
  ツイーター ..... 2.8cm コーン× 16
- インピーダンス 4Ω

入力端子

- オーディオ入力
  光デジタル ..... 2（TV、光デジタル）
  同軸デジタル ..... 1（AUX2）
  アナログ ..... 1 組（AUX1）
- HDMI 入力 ..... 3（HDMI 入力 1 ～ 3）

出力端子

- HDMI 出力（ARC） 1
- ヘッドホン出力 1
- サブウーファー出力 1

その他の端子

- インテリビームマイク 1
- システム接続 1

Bluetooth

- *Bluetooth* バージョン ..... Ver.2.1+EDR
- 対応プロファイル ..... A2DP、SPP
- 対応コーデック ..... SBC、aptX
- 無線出力 ..... *Bluetooth* Class2
- 最大通信距離 ..... 10m（妨害のないとき）
- 対応コンテンツ保護 ..... SCMS-T 方式

総合

- 電源電圧 ..... AC100 V、50 / 60Hz
- 消費電力 24W
- 待機消費電力
  HDMI コントロール　オン、
  Bluetooth スタンバイモード　オン時 ..... 1.2W 以下
  HDMI コントロール　オフ、
  Bluetooth スタンバイモード　オン時 ..... 0.5W 以下
  HDMI コントロール　オフ、
  Bluetooth スタンバイモード　オフ時 ..... 0.4W 以下
- 寸法（幅×高さ×奥行き）
  （脚部高さが最低のとき） ..... 944 × 73 × 144mm
- 質量 4.0kg

NS-WSW120

- スピーカーユニット ..... 10cm コーン非防磁型× 2
- 入力端子 1
- システム接続端子 1
- アンプ出力 ..... 75W（100Hz、5Ω、10%THD）
- アンプダイナミックパワー 130W
- 再生周波数帯域 ..... 40Hz ～ 500Hz
- ワイヤレス部
  周波数帯域 ..... 2.4GHz 帯
  通信距離 ..... 10m（妨害のないとき）
- 電源 / 電圧 ..... AC100V、50 / 60Hz
- 消費電力 45W
- 待機消費電力
  無線接続時 1.6W
  有線接続時 1.5W
- 外形寸法（幅×高さ×奥行き）
  縦置き ..... 147 × 444 × 353mm
  横置き ..... 434 × 129 × 353mm
- 質量 7.9kg

YSP-CU2500 + NS-WSW120

- 再生周波数帯域（−10dB） ..... 40Hz ～ 22kHz
- クロスオーバー周波数 500Hz

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機の無線方式について



「2.4」	2.4GHz 帯を使用する無線設備
「FH」	変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）
「1」	想定干渉距離が 10 m 以内
	全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

付属のサブウーファーの無線方式について



「2.4」	2.4GHz 帯を使用する無線設備
「XX」	変調方式はその他の方式
「1」	想定干渉距離が 10m 以内
	全帯域を回避可能

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

IntelliBeam

「インテリビーム」「IntelliBeam」は、ヤマハ株式会社の商標です。



「シネマ DSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

UniVolume

「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、及びダブル D 記号 DD はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては http://patents.dts.com をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。
DTS、DTS-HD、それらのシンボルマークおよび DTS とそのシンボルマークの組み合せは、DTS 社の登録商標です。
© DTS, Inc. All Rights Reserved.



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」はソニー株式会社の商標です。



AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

Bluetooth

Bluetooth は、*Bluetooth* SIG の登録商標であり、ヤマハはライセンスに基づき使用しています。

***Bluetooth* について**

- *Bluetooth* とは、無許可で使用可能な 2.4 GHz 帯の電波を利用して、対応する機器と無線で通信を行うことができる技術です。

***Bluetooth* 通信の取り扱いについて**

- *Bluetooth* 対応機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有する周波数帯です。
  Bluetooth 対応機器は同じ周波数帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を採用していますが、他の機器の影響によって通信速度や通信距離が低下することや、通信が切断されることがあります。
- 通信機器間の距離や障害物、電波状況、機器の種類により、通信速度や通信距離は異なります。
- 本書はすべての *Bluetooth* 機能対応機器とのワイヤレス接続を保証するものではありません。



© 2013 CSR plc and its group companies.
aptX® およびロゴマークは CSR 社またはそのグループ会社の商標または各国の登録商標です。

「ブルーレイ ™」および「ブルーレイディスク ™」はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。

対応する信号

HDMI

❑ 本機が受信可能な音声信号

音声フォーマット	詳細	主なディスク
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ～ 192kHz、16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32 ～ 192kHz、16 / 20 / 24bit	DVD-Audio、BD（ブルーレイディスク）、HD DVD
ビットストリーム（SD オーディオ）	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	BD（ブルーレイディスク）、HD DVD

- 本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の、HDMI や DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器や DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

❑ 本機が伝送可能な映像信号

以下の映像信号に対応しています。

- Deep Color
- x.v.Color
- 3D 映像信号

以下の解像度に対応しています。

- VGA
- 480i / 60Hz
- 480p / 60Hz
- 576i / 50Hz
- 576p / 50Hz
- 720p / 60Hz、50Hz
- 1080i / 60Hz、50Hz
- 1080p / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 4K / 60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz

- 接続したテレビの性能により、伝送する映像信号の解像度などが変わります。

デジタル音声（光・同軸）

音声フォーマット	詳細	主なディスク
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ～ 96kHz、16 / 20 / 24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
ビットストリーム	ドルビーデジタル、ドルビーデジタルサラウンド EX、DTS、DTS-ES、AAC	DVD-Video

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「〜しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。● 加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。● 無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V（50 / 60Hz）の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には：
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **センターユニットをあおむけや横倒しには設置しない。**
- **サブウーファーをあおむけには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（センターユニットの周囲に左右 5cm、上 5cm、背面 5cm 以上のスペースを確保する。
サブウーファーの周囲に左右 20cm、上 20cm、背面 20cm のスペースを確保する。）
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。
電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。



心臓ペースメーカーや除細動器などの装着部分から 22 cm 以上離して使用する。
ペースメーカーや除細動器に影響を与え重大事故につながる場合があります。



十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。
傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

使用上の注意



放熱用の通風孔から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。



サブウーファーのポート（開口部）に異物を入れたり、落としたりしない。
火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠注意

電源 / 電源コード


プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。


ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。


禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。


必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。


禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。


必ず実行

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。
センターユニットなどの ⏻ キーで電源をオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

電池


必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナスー）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。


禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。


必ず実行

リモコンの操作範囲がせまくなったときは、すべての乾電池を新しいものに交換する。
古い乾電池を使用していると、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例、または取り決めに従って廃棄する。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

新しい乾電池を入れる前に、電池ケース内をきれいにふく。
異物が入ると、火災や故障の原因になります。

設置


禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。


禁止

センターユニットをあおむけや横倒しには設置しない。
サブウーファーをあおむけには設置しない。
故障やけがの原因となることがあります。


禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。


必ず実行

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。


必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。


必ず実行

ワイヤレスサブウーファーや *Bluetooth* 機能を使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線ネットワーク機器の近くへの設置を避ける。
通信可能距離が短くなる場合があります。


必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害を与えるおそれがあります。また、本機のサブウーファーは非防磁のスピーカーを使用しています。他の機器や磁気記憶装置に障害を与えるおそれがあります。

設置



機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。

突然大きな音が出たり、感電することがあります。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



サブウーファーを持ち運ぶときにはポート（開口部）に手をかけない。

ポートがはずれたり、本機を落としたりして、けがの原因になります。

使用上の注意



再生を始める前には、本機の音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



サブウーファーのポート（開口部）には手を入れない。

感電やけがの原因となることがあります。



外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。

説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因になります。



業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。



小さな部品は幼児の手の届かないところに保管する。

飲み込んだりすると危険です。

リモコン



水やお茶などの液体をこぼさない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

故障の原因になります。



落としたり、強い衝撃を与えたりしない。

故障の原因になります。



下記のような場所に置かない。

- **風呂場の近くなど、湿度が高いところ**
- **暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ**
- **極端に寒いところ**
- **ほこりの多いところ**

火災や故障の原因になります。

お手入れ



お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。



薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態でご使用ください。

［NS-WSW120］



本体のこの表示のある部分は、使用中に熱くなることがあります。
触るとやけどをするおそれがあるので、使用中や使用直後は取扱いに注意してください。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

本製品は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を内蔵しております。

YSP-CU2500 の製品ラベルは本体の底面に掲示してあります。

索引

数字

3Beam（3 ビーム） 37
5.1ch 37， 52
5Beam（5 ビーム） 37
5Beam+2（5 ビーム プラス 2） 37
7.1ch 37， 52

A

AAC 71
ADVANCED 59
ARC 20
AUDIO ASSIGN 58
AUDIO DELAY 58
AUTO POWER STANDBY 60

B

BASS 58
Bluetooth 42
Bluetooth スタンバイモード 44

C

CINEMA DSP インジケーター 8

D

Deep Color 71
Dolby Digital 71
Dolby Digital EX 71
Dolby Digital Plus 71
Dolby PL IIx パラメーター 53
Dolby Pro Logic II 71
Dolby Pro Logic IIx 71
Dolby TrueHD 71
DTS Express 71
DTS Neo:6 71
DTS-HD High Resolution Audio 71
DTS-HD Master Audio 71
DTS デジタルサラウンド 71
DUAL インジケーター 8， 40
D 音声多重キー 40

E

ENHANCER インジケーター 8

H

HDMI 71
HDMI インジケーター 8
HDMI 音声出力 53
HDMI ケーブル 20， 21
HDMI コントロール 31， 53

L

Lch / Rch 位置調整 49

M

MP3 39
MY SUR. 37

P

PCM 71

R

REPEATER インジケーター 8

S

St+3Beam 37
St+3Beam+2 37
STATUS インジケーター 6

T

TARGET インジケーター 8
TREBLE 58
TV インプット 54
TX インジケーター 8， 24

U

UNIVOLUME インジケーター 8

V

VOLUME TRIM 58
VOL インジケーター 8， 33

X

x.v.Color 71

あ

明るさの調節（前面ディスプレイ） 54
アダプティブ DRC 51

い

インテリビーム 26
インテリビームマイク 26
インテリビームマイク端子 6

え

映画（シネマ DSP） 35
映像信号情報 56
エコ機能 40
エラー音 28
エラーメッセージ 30
エンタテイメント（シネマ DSP） 35

お

オーディオディレイ 58
オーディオリターンチャンネル 20
オプションメニュー 57
おまかせサラウンド機能 31
音楽（シネマ DSP） 35
音質調整 29

音声切り替え 40
音声信号情報 56
音声ビームの出力方法 36
音量 33
音量バランス 39, 50

か

拡張メニュー 59
簡易マイクスタンド 26

き

距離単位 55

く

クリアボイス 39

け

ゲーム機 33

こ

高音 58

さ

サブウーファーの音量 33, 39
サブウーファーの設定 50
サラウンド音声 34
サラウンド再生 34
サラウンドデコーダー 52
サンプリング周波数 34, 56, 71
サンプリングレート 39

し

システムメモリー 41
自動スタンバイ機能（AUTO POWER STANDBY） 60
自動設定（インテリビーム） 26, 28
焦点距離 48
情報表示 56

す

スイートスポット 48
水平角度 47
ステレオ +3 ビーム 37
ステレオ +3 ビームプラス 2 37
ステレオ再生 38
滑り止めパッド 15, 17

せ

設定メニュー 45
前面（センターユニット） 6
前面（サブウーファー） 10
前面ディスプレイ 6

た

ターゲット再生 38
ダイナミックレンジ 51
タイミング調整（映像と音声） 58

ち

チャンネル出力 36, 49, 52
チャンネルレベル 50

て

低音 58
ディマー 54
テスト音 50
テレビ 25, 31, 33
テレビ音声の入力端子割り当て 54
テレビリモコンリピーター機能 14
電源コード 7, 10, 23

と

トーンコントロール 58

に

二カ国語放送 40
入力端子の割り当て（HDMI の音声） 58

ひ

ビーム経路長 47
ビーム調整 29
ビーム調整＋音質調整 29

ふ

ファームウェア 56, 60
副音声 40
ブルーレイディスクレコーダー 33

へ

ペアリング 24, 42
ヘッドホン 38

ま

マイサラウンド 37
マトリックスデコーダー 52

み

ミュージックエンハンサー 39

む

無線機能 50
無線接続 24

め

メニュー画面 25
メニュー言語 55

ゆ

有線接続 24
ユニボリューム 40

り

リフレクションボード 67
リモコン 9, 18
リモコン受光部 6
量子化ビット数 71

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL （053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL （053）460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
（03）5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、北陸地域にお住まいのお客様
（06）6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

* 名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● **保証期間**
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



© 2014 Yamaha Corporation

ヤマハ株式会社
Printed in Indonesia ZM27530-1